KID赤公認 メモオフ本
session
Memories Off ~infinity~

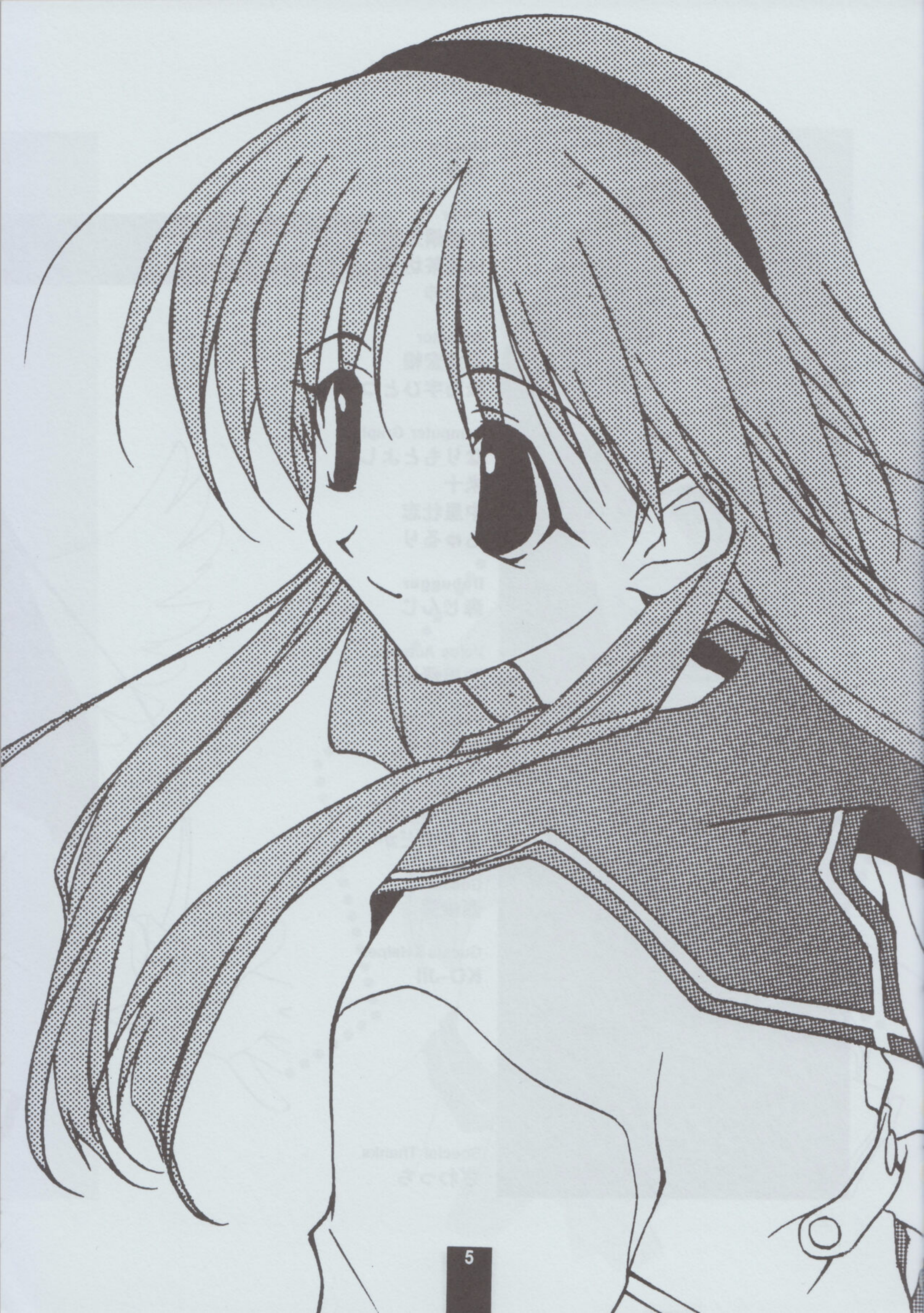
KID未公認 メモオフ本

session

Memories Off ~infinity~

もしもーし？
起きて
くださーい！

『Memories Off』ファンの皆様、こんにちは。本誌は松乃宇ひとつと冬槻未咲が発起人の、キッド関係者有志による「めもおふ本」です。ファンの皆さんが作られた同人誌も勿論拝見しておりますが、自分たちでもやってみたくなって、周囲を巻き込みつつこんな本を作ってしまいました。
巻き込まれたゲストの皆さん、ごめんなさい。でも、きっと楽しかったハズ（にやり・笑）。編集作業はホントにどうなることかと思いましたけど（原稿は集まらないし、原稿サイズは違うし・冷汗）、なんとかこうしてまとめの言葉みたいなものを書いています。
やりたいこと全ては到底こなせませんでしたが、それはまたの機会を与えられたと思うことにして（笑）、総勢17名による「めもおふ」へのファンコール、楽しんでいただければ幸いです。

2000.7　冬槻未咲（文責）

Director
TAS

Writer
打越鋼太郎
日暮茶坊
高瀬伸

Animator
高井宏暢
松乃字ひとつ

Computer Graphic
なりもとよしな
米十
中里壮志
ちゅるり

Debugger
森しんじ

Voice Actress
利田優子

Promotion
冬槍未咲

Goods
ちーちゃん
有村まどか

Guests
西俊秀

Guests＆Helper
KO-JI!

Special Thanks
ざわっち

FAN SPACE

YUE
IMASAKA
ぐはっ この娘の最大の
チャームポイント
は首元にあり
と思ってるん
ですけど
なんで
かかないですか
おいらってば…
バカです

ツリ目ーズです。
なにげにツリ目
ネコ目にヨワイです
タレ目やメガネもイイデス
もちろん普通の目もスキデス
：
なんでもいーんじゃん俺

めもりーずおふみすてりー4コマ

有村まどか 2000.

保健室のひみつ

雨ですっかりずぶぬれになったみなもちゃんは、保健室で着替え…

えらかったわね。でも今日はみなもちゃんのためにも帰りなさい。

そんなっっ・どうしてっ

有村せんせ〜〜。(想像)

みなもちゃん大丈夫？

あ、こらっ

みなもちゃん!!

ぱっ

ってコスプレーっ?!

…っていうかきがえって保健室にある一体…？先生のひみつ。

きゅうりの…？

なぜなら…

みなもにできあがった写真を見せることはできなかった…

なんか…

うつってる…

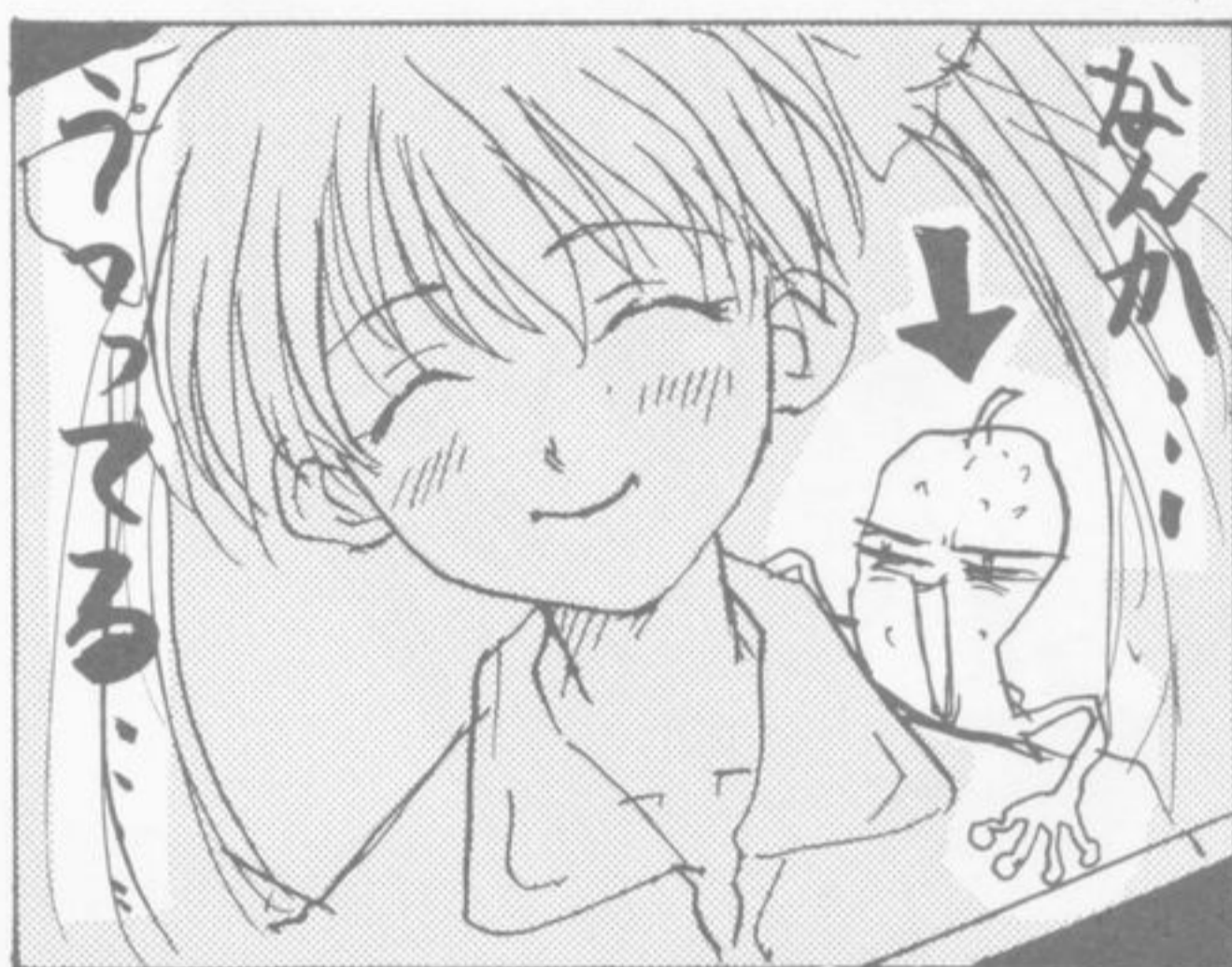
あっキューちゃんもうつってるー!

か〜わい〜んだあっ♥

キューちゃんとは!?

教えて中丸先生

みなもちゃんちに古くから伝わる妖精で、とりつかれると「キューキュー」言わされるぞ♥

みんな気をつけてネ!

イラストを一枚。
・・・白い(笑)
そしてトーンがヘタヘタ。
もっとがんばりマス・・・
by 森しんじ

今坂 唯笑 YueImasaka

Toshihide Nishi

ちゅるりのメモオフキャラ
かってにイメージ図
ごめんなさい
これでかんべん
して下さい(泣)
桧月彩花さん
死人(ヒロイン?)
どぎゃ〜
今坂唯笑サン
むしろニンニンネコピョン
伊吹みなもサン
病人?
ヨロヨロ
双海詩音サン
ごきげんよう
ゴキゲンヨウ
私ハチガイガワカルオンナヨ♡
霧島小夜美サン
おいしいキャラ?
ちっまたかよ
なっとパン
びたーん
音羽かおるサン
陸上部?
稲穂信サン
いい人
GOOD
注.ちゅるりのイメージは実際のゲームに多分反映してきません。

Memories
by カーちゃん こと 相良カイ

●レイ ←→ 詩音●
少し苦かったね
でも
暖かいわ
少し苦かったね…
智也
10点

Shion♡

伊豆パロ劇場
byちーちゃん

●みなも ～ハッピーバッドエンドの巻～●
彩花死去
みなも死去
ファンの方すみません…
第3ラウンド
カーン
智也
次は誰が死ぬのか…
奴が死神!?
ヒソ
ヒソ

KO-JI '00

古文でGo。!!

めもおふぅ。

し

バーカバーカ。

ケヒッ。

かおる

オレの音羽さんがあっ!!

信

にんにんねこぴょん

るーずなこよみさん

Memories Off

音羽かおる
や、ちょっと前から自分的に黒タイツorストッキング
ブームなモノで(爆)。
松

およ？
信

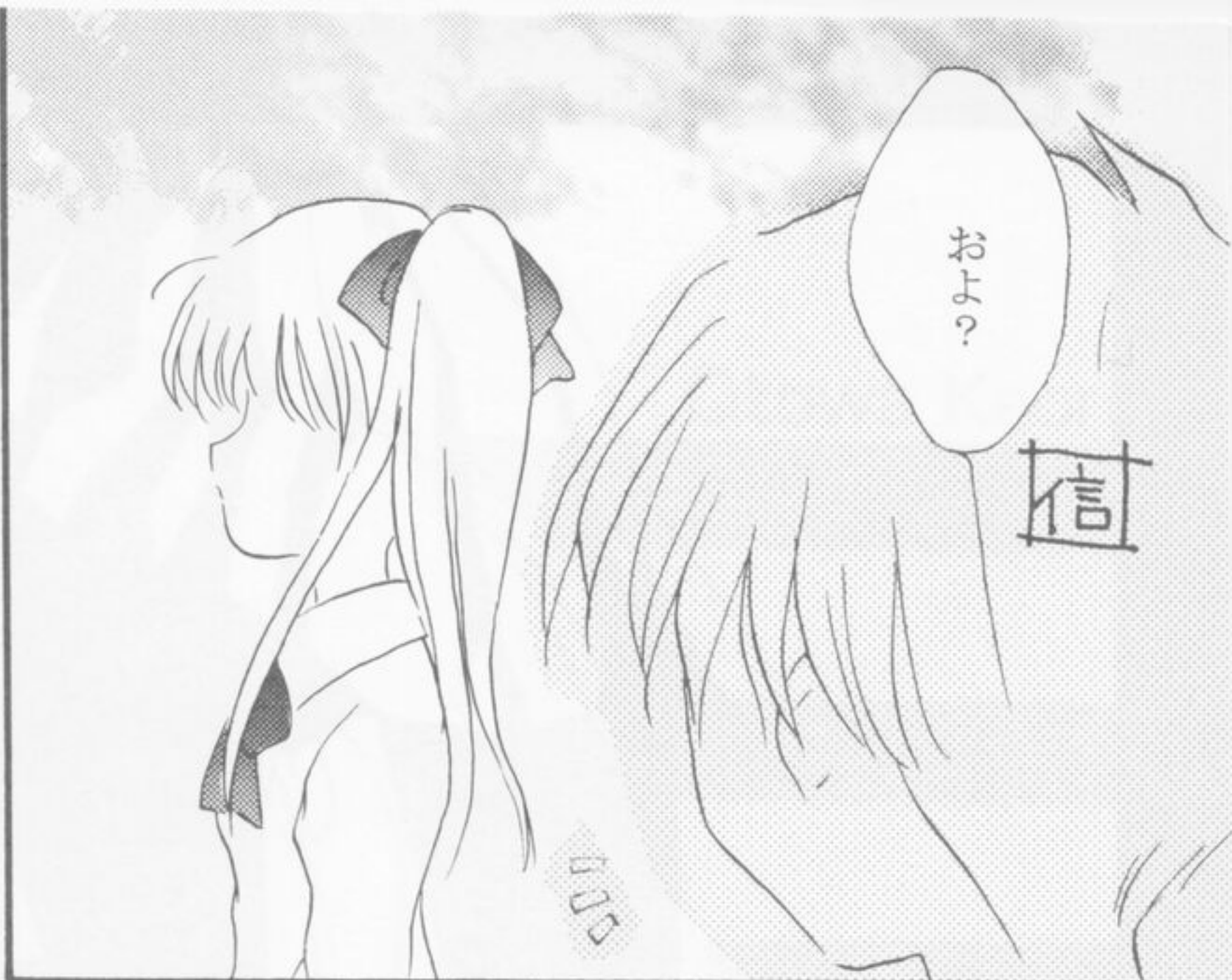
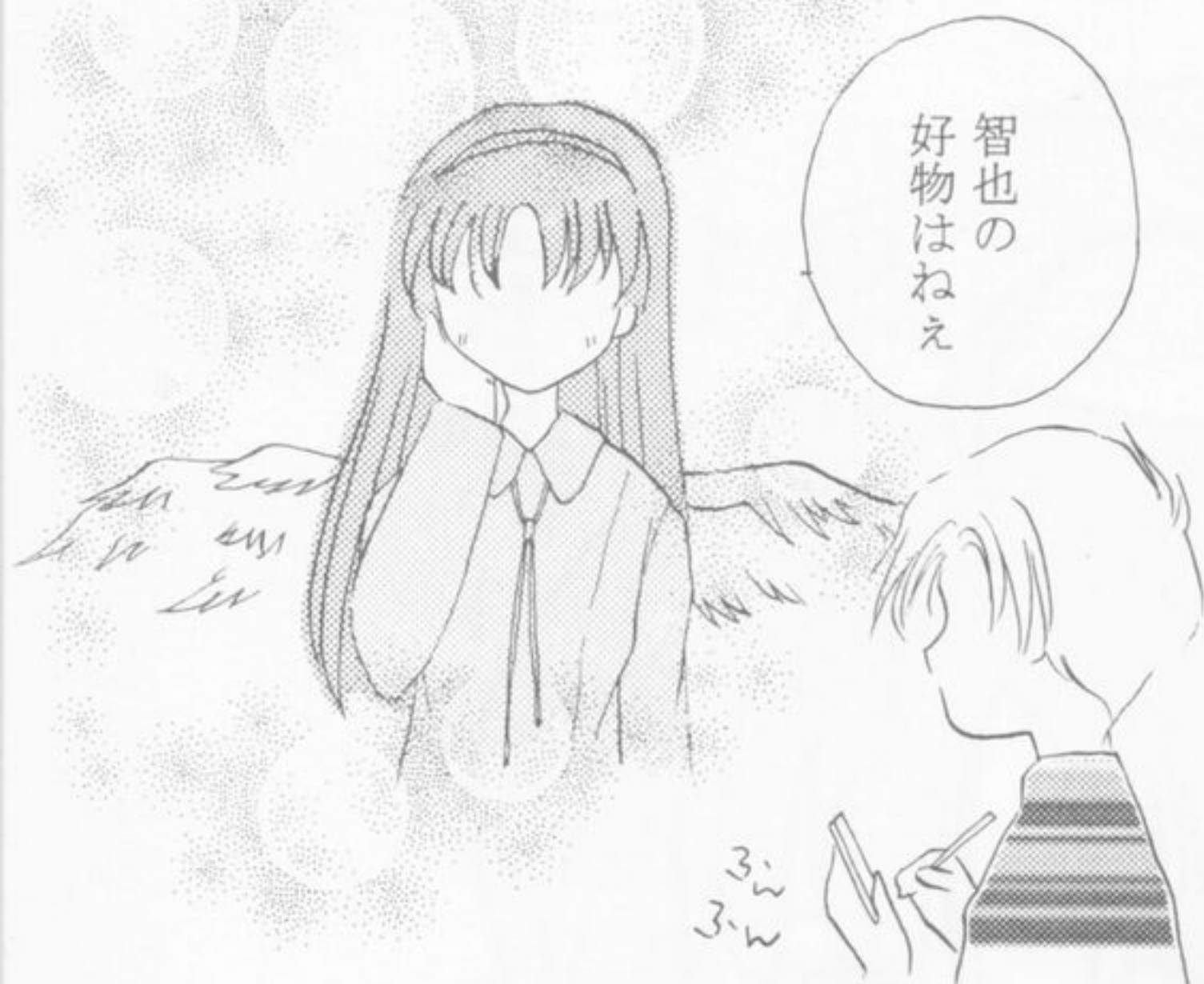
みなもちゃん
おでかけ？

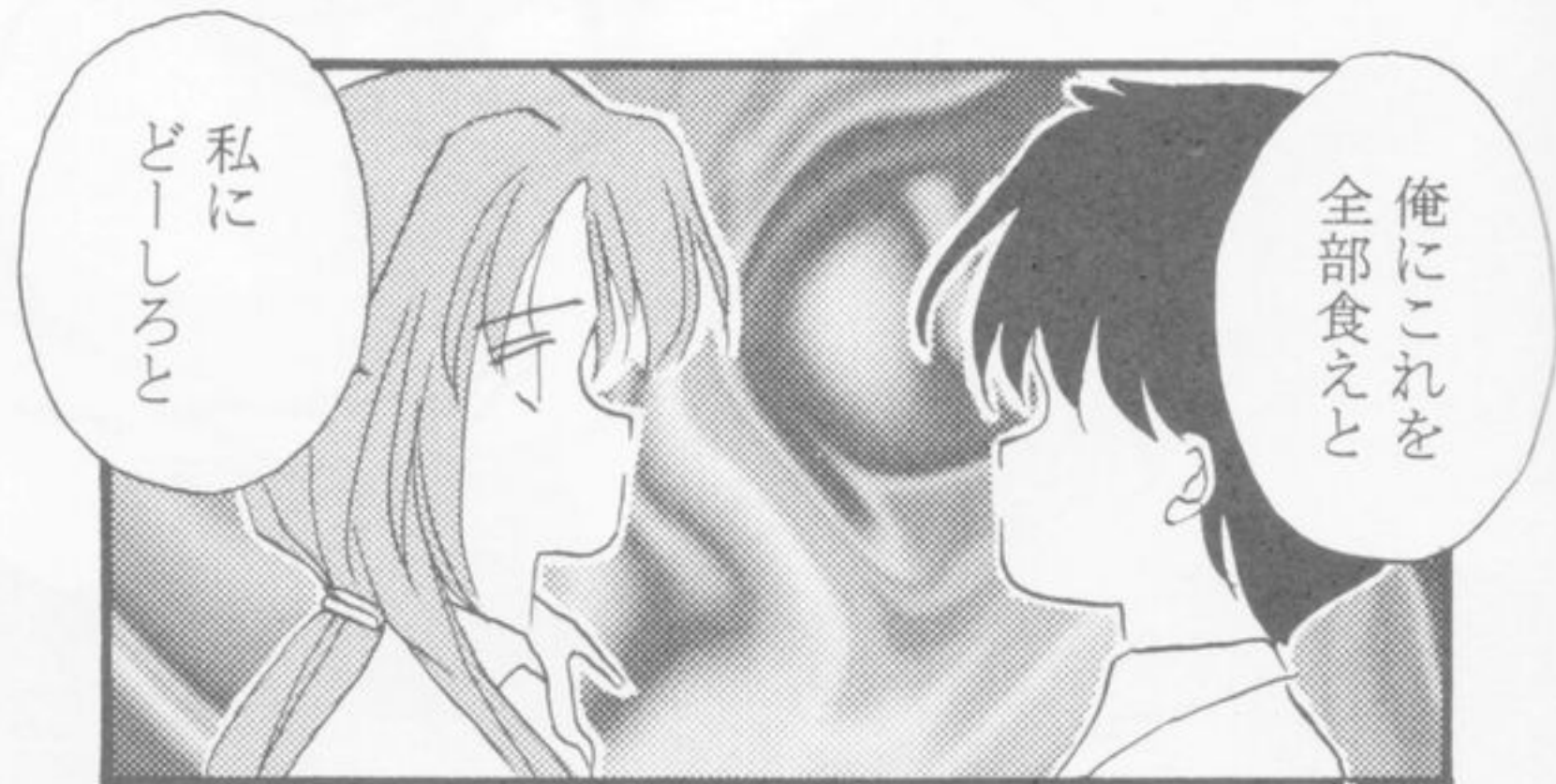
小夜美さんに
お料理教えてもらいに
行くんです

へぇー
じゃあさ、俺
リクエストしても
いいかなぁ？

はい！
何でもどーぞ
じゃあねえ……

好きなメニュー、
ですか？

今食べたい
物かぁ……

へ?作ってほしい
食べ物?
なー
智也の
好物はねぇ
ふんふん
どうですか?
私が(小夜美さんに
教えてもらって)作った
栗ご飯とハンバーガーと
猫まんまと
カラ揚げサンドと
キューちゃん!
俺にこれを
全部食えと
私に
どーしろと
HAVE A NICE
HOLIDAY
2000.7.15
小夜美さーん
おかわりー
はーい

Ryuko
Kagata
2000

風の詩
はらはらと
音鳴りて・・・。

唯笑編

「え？　智ちゃんが唯笑のこと忘れたら？」
「あ、ああ」
（こいつも彩花みたいな事言わないだろうな……）
「うんとねぇ……」
真剣な表情で考える唯笑。
「わかんない……かな」
「おい……わかんないって、それだけ考えてわかんないのか？」
「だって、そうじゃない？
智ちゃんは唯笑の事忘れてないわけだし、その状況になってみないとわかんないよ」
「まぁそれもそうかもしれないけど」
「それに、智ちゃんが唯笑の事忘れそうになったら、きっと彩ちゃんが何とかしてくれるよ」
「彩花が？　どうやって？」
「うんとね、智ちゃんの夢の中に毎回出てきて
『忘れちゃダメだよぉ』って何回も何回も何回も繰り返し言うんだよ……多分」
「……おい唯笑、それって結構恐いぞ」
「そう？　そっかなぁ？」
「考えても見ろ。毎夜毎晩そんなこと囁かれたら、そりゃ忘れはしないけど眠れないだろが！」
「そ、それもそうだねぇ……」

詩音編

「智也さんが忘れたら……ですか？」
「ああ」
少し考えるような表情を浮かべる詩音。
その表情の中に、幾度か笑みがこぼれるのがわかる。
（な、なにをかんがえてるんだ？）
「そうですね……とりあえず……」
「とりあえず？」
………………。
………………。
「内緒です」
そういって微笑を浮かべる詩音。
「内緒って……教えてくれないのか？」
「はい」
「どうしても、お知りになりたいのでしたら、私の事、忘れてみてください」
いつもと変らないその表情の中に、智也は身の危険を感じさせる何かを読み取った。
「い、いや、やめとく」
「そうですか？　それは残念です……せっかく試せると思ったのですが……」
（詩音……どこまでが本気なんだ？）

彩花編

「なぁ、彩花……」
「うん？、どしたの智也」
「お前さ、オレがお前の事忘れちゃったらどうする？」
「智也が私の事を忘れたら？」
「ああ」
少し考えるようなしぐさをする彩花。
少し間を置いて……
「こう……するかな」
そう言って智也の首をしめる。
しかも、笑顔で……
「◆△∀φ☆！！！」
「ていうのは冗談で……」
「冗談で済ますな！！　今のマヂだったろ？」
「そ、そんな事ないってば。第一、智也がこんな事ぐらいで死んじゃうわけないじゃない」
「いや、絶対死ぬ」
「あははは……」
少し引きつりぎみの笑みを浮かべる彩花。
「まぁ……そのときは私が人工呼吸したげるから、許してね」
（なんかこんなところばっか唯笑に似てきてるよなコイツ……）
違うのは、唯笑がほぼ天然なのに対して、彩花はある程度、計算づくでこういう事をやる事だ。
ある意味危険な性格と言える。
「で、話の続きだけど」
「ああ、で？」
「私は何にも言わないよ」
「え？」
「それってオレのことはどうでも……」
「ううん、違うってば」
慌てて弁解する彩花。
「だって、智也が私の事忘れられるはずないもん」
「だから、何も言わないの。ううん……何も言えないのかな。ありえないことだもん」
「オレが彩花の事を、忘れられないってどういう事だよ」
「私が智也のこと、忘れる事が出来ないと思うから」
「だから、なんでそれが……」
「私がそうだから、智也もきっとそうに決まってるもん」
（…………マヂか……
オレが彩花の事を吹っ切れないでいた理由は案外こんなところにあったのかもしれないな……
もし忘れたら……逆に何されるかわかったもんじゃない……）

TAS.

忘れることも忘れないでね

かおる編

「え？　智也が私のこと忘れたらどうするかって？」
「ああ、どうする？」
「殴る」
「へ？」
「蹴る、叩く、絞める」
「ちょっ、ちょっと……」
「それでも思い出さないようなら……」
「…………」
「なーんて、冗談っ。
……ってどしたの智也？　そんな所にうずくまって？」
「いや……なんでも……」
「そお？　だったらいいんだけど。じゃ今日はどこによって帰ろっか」
「かおるに任せる……」
「じゃあ、見たい映画あるんだけど、それでいいかな？」
「ああ……なんだったら今日はおごってもいいけど……」
「え？　ほんとに！　ラッキー！
ネ、ホラはやく行くよ」
かおるはそう言うと、とっとと教室を出ていく。
「あの目……笑ってはいたけど……
ストレートに言う分、詩音よりマシかもしれないけどな……」

小夜美さん編

「智也くんが私の事忘れたら？」
「ああ」
「そうねぇ……」
ごくりと息を飲む智也。
「まず、お昼の取り置きやらないで済むから、面倒くさくなくていいわね」
「はい？」
「あ、あとは智也君に勉強教えなくてもよくなるね」
「は、はあ……」
「ビックリしちゃったよ。智也くん、この高校に入れたわりには全然勉強できないんだもん」
「あのぉ小夜美さん？」
「あと、それからそれから…………」
智也の呼びかけも聞こえないのか、延々と話しつづける小夜美。
（ストレスたまってんのかな？　人気ランキング低いもんだから……）
「智也くん？　何を考えてるのかなぁ」
「べ、別に何も！」
「ほんとにぃ？『人気ないからストレスたまってんじゃないのか』とか何とか思ってるんじゃないの？」
「そんなこと思ってないですってぇ……」
（なんで感づかれたんだ？　これがニュータイプの力だと言うのか？）

みなも編

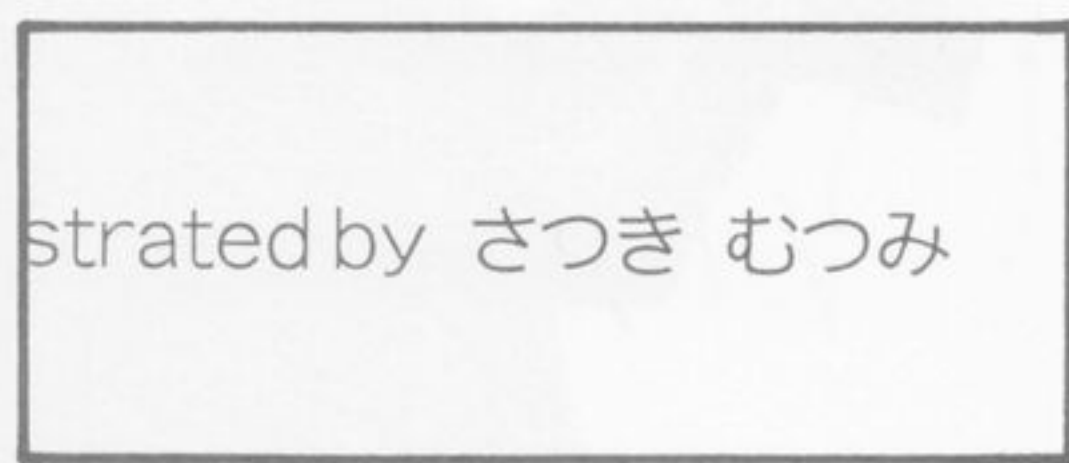
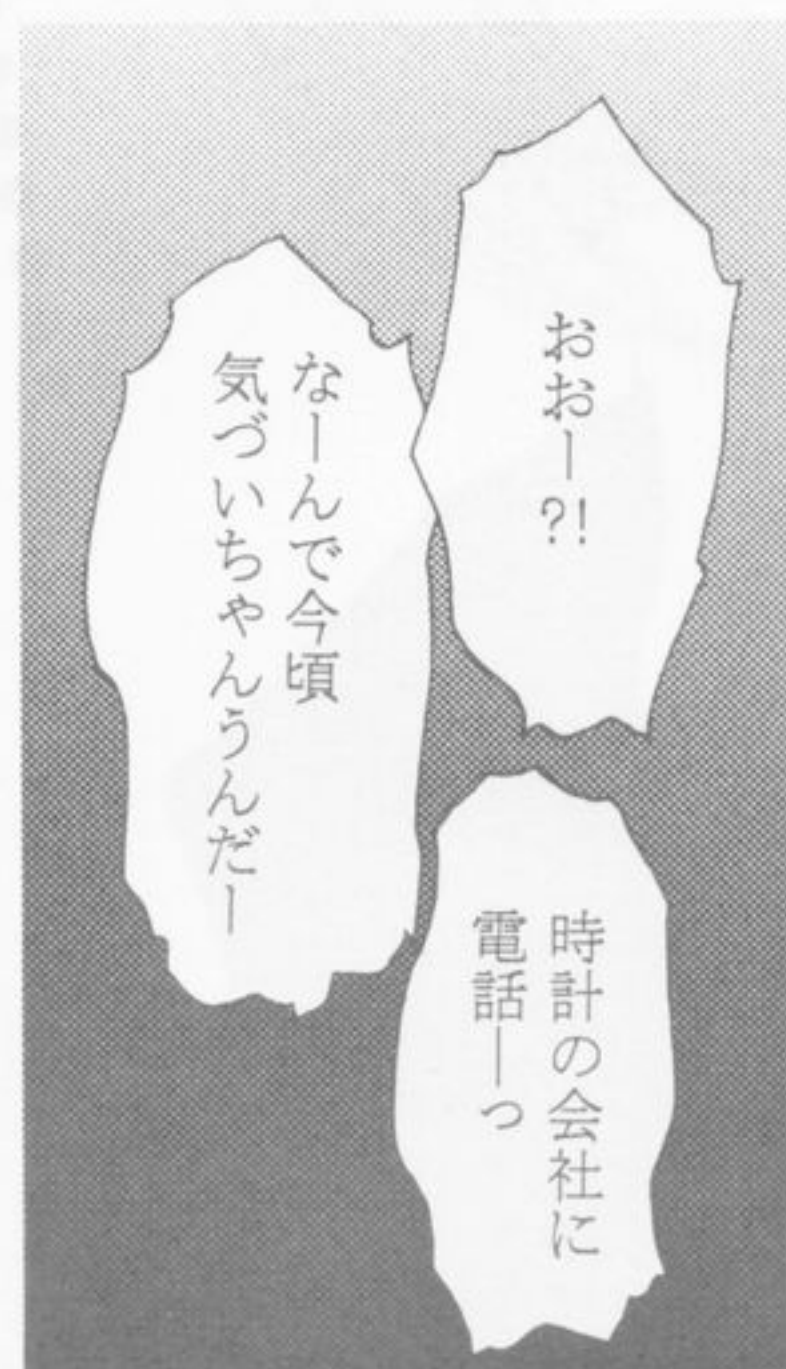
「智也さんが、わたしのこと忘れちゃったとしたらですか？」
「うん、どうかな？」
「ダメです！」
「えっ？」
「智也さん！　そんな事言ったらダメですよ」
「な、なんで？」
「なんででもです！」
語尾を荒げてみなもちゃんが言う。
「ごめん……変なこと聞いちゃったかな……
でもなんでそこまで……」
「だって……智也さんホントにわたしのこと忘れてしまうような気がしちゃって……」
「そんな事あるわけないだろ？」
「でも……絶対なんてないんですよ。智也さんだってわかってるはずだもん」
多分みなもちゃんは彩花のことを言っている。
そう智也には思えた。
「だから、そう言う事は冗談でも口に出しちゃいけないと思うんです」
「そう……だよな」
ありえないことが起こることだってある。それを智也は一番分かっているはずだった。
「じゃあ、この話はここでおしまいです。
いいですよね、智也さん」
「ああ、悪かったな変なこと聞いちゃってさ……」

信編

「智也が俺のこと忘れたら？」
「ああ」
「いいじゃないか、そうすれば俺らの関係にリセットがかかって」
「で？」
「唯笑ちゃんの保護者たるお前に、気に入られる人間として認識しなおされ、
晴れて唯笑ちゃんにアタックできるじゃないか！」
「いや、別にオレは唯笑の保護者でもなんでもないん……」
「しかもだ！
お前から借りてるものも返さなくてよくなる訳だし
俺にとって悪い事は何もない」
「…………」
「忘れるんだったら早くしてくれ。
どーしても忘れられないってんだったら、俺が忘れるための手伝いをしてやろうか？」
「いや、いい遠慮しとく」
「なーに遠慮なんかしてるんだよ。俺たち親友だろ？」
「親友はそんなことはせんわ！！」

忘れることも忘れないでね

…忘れちゃった。

TALK ABOUT OFFICIAL WORKS

おいおい。

strated by さつき むつみ

セットアップ済。発売2週間前。

2000.7.15 冬槻未咲

めもりーず おふ
Memories Offなこと

あまり危険なこと書いてない・・・

Act 1 スケジュールなこと。

実質スタートが'99.3月でマスターアップが8月中旬・・・

でも、実質7月中旬で出来てたから5ヶ月!?

PS版伊豆オフは6ヶ月で制作されました。

うむ2よく終了したもんだよー

しかしこのところ新作のスケジュールがみじかーくなってきてるよーな

で、2ヶ月ってなんの話でしょーか? 冗談ですかいな?

教訓

終っても終ったと思うな。次の刺客はそこにいる。

とほほー

Act. 2 むーみんのこと

ちなみに 香菜は 洋服なんだが。

ゆめみはいれなくてよかったっす。設定的にもアレでしねー

で、これもふくめて、アレなものがいくつか・・・いれなくてよかった。

自称もっとも ギャルゲーをわかってるらしいが・・・ダメっす そんじゃ

トホホー

Act. 3 1500のこと

つーか出すこと自体はヤダとは言わない(いえない)っすけど。

なにも、DC版出てから1ヶ月以内に出すことないじゃん(泣)

DC版売れないじゃないですかぁー

The Best ならともかく、ちょいと安すぎー

Act. 4 設定のこと

かえるの初期プロット、え、かおり… 人目殺しちゃダメ

感動とかいう言葉のために人を殺すのはよしましょー。

なんか**イヤ**です。ま、Pureであかは

好きに描けたからokだけど ^^;

乱筆乱文にてスマヌ

TAS

CG T.Shibata

かがた ゆうこ
利田優子の

アフレコ日記

SION Age 13

難解な言語を操る詩音。そんな中でも特に有名な「肺に命じておきます」を収録中の時のこと

台本。

智也「……」
詩音「はい、肺に命じて おきます。」
—30—

これって誤植じゃないよね…

はい。肺・に命じておきます。

ぷっ

はい、ストップ。NGです。

この作品に関して、自分なりに作業時の思い出などを書かせていただきます。
発売されてからいろいろな意見を拝見させていただいています。

音羽かおるという少女は、どちらかといえば「普通」を強調したかったんです。
でも自分の力量不足で、みなさんに上手く伝えることができませんでした。
個性が光るキャラも魅力的ですが、あえて普通っぽく書いてみましたが、今となってはこれはこれで良かったと思います。

苦労した点では、とにかく唯笑というヒロインをどうすべきか考えました。
本音を言えば、このゲームは「智也と唯笑の物語」なわけですから、どうやって最終的に唯笑との接点を作るか。
その答えがラストの1シーンです。
物語がどんな展開になろうとも、最後だけは「ちゃんと智也から唯笑に言わせよう」という場面を想定してました。
ここで「唯笑が可哀想」と思ってくだされば、個人的には「勝ち」かと……（笑）

自分的に好きなシーンは、雨の日に智也のことを待つところです。
あれが自分の目指したところの音羽かおるという少女だと見てもらえれば幸いです。
でも他のシーンは地味な事ばかりで、かおるには悪いことをしてしまいました。

他キャラの一部台詞やシーンを修正・追加したりもしましたが、個人的には反省すべき事ばかりでした。
しかし良い勉強にもなりましたので、今後は今回の経験を肺に銘じ……肝に銘じていきます（笑）

（高瀬伸）

くんでしょうか？」
小「その辺は、完全に作者の趣味よね…いわゆるヲタクってやつかしら？」
信「そういえば、本編のカキ○○○○とかは出てこなかったような」
詩「それは余計な摩擦を避けようと思ったのでは…？」
小「仔猫の話はどこから？」
詩「うりとももですね。紅茶に関する知識もそうなんですが、声優さんにご協力いただいたようです」
信「あと、イメージなんかも借りてるらしいね」
小「…え？　私が妙に暴力的になってるのは…」
信「あ、それはライターさんのイメージみたいです」
小「な、なんと…（涙）」

信「そういえば、今回、執筆期間がやたらと短かったらしいんだけど？」
小「あら？　プロットを書いたのは昨年末だったって聞いてるけど…？」
詩「それから放置プレ…いえ、だいぶ寝かされていたみたいですね。ＤＣ版の発売で思い出してもらえたといったところでしょうか」
信「実際、どのくらいで書いたのか知ってる？」
詩「…○週間で…と言われたようですね。最終的に、もう１週間延ばしてもらったみたいですけど…」
小「それって、攻略本作るみたいな期間ね…」
詩「そうですね。しかも、急なお話だったので、他に攻略本を２冊平行作業だったようです…」
小「ま、でもそれだからってなんの言い訳にもならないわね。本人の問題だし」
信「そうそう。お客さんにとって、制作側の課程は問題じゃないっすからね」

ぷんぷくっぷっぷー。
信「あ、妙な音楽が流れてきましたね。そろそろ終わりってことですか？」
小「まだまだ、謎の部分はいろいろあるような気もするんだけどね…」
詩「謎は謎のままが一番です。それに、こういった公の場では言えないようなこともあるでしょうし…」
信「ま、それは作者に直接聞いてみてくれってことだね。答えてくれるとは限らないだろうけど」
小「まぁ、唐突にＤＣ版の発売日にアキバに行ったりするぐらいだから、探せば見つかるでしょう」
詩「ゲー○WA○Ｅで、楽しそうにギ○ーフ○ークスを弾いてるところも流れてたようですし…」
信「あ、アホだ…」
小「それにしても、ここの効果音って、変な音ねぇ。いったい何なのかしら？」
詩「…っぷく」
小「あんたかぁぁぁぁ！」
詩「それでは、２巻までごきげんよう！」
小&信「２巻!?」

…to be continue？

穴ウメ企画

特別大公開 詩音の秘密!!

（注・アンオフィシャル）

その1. ムー○ン好きらしい！
彼女の暮らしていたフィンランド…といえば、やはりムー○ン!!
ムー○ン谷の仲間たちは、きっと彼女の心の中に…って、実は彼女自身が「紅茶好きのハムル」とのウワサも!?

その2. イメージソースは「綾○」+「ル○」
確か発注されたときは、「無口な綾○系で」と言われたような。でも書いていくうちにどんどん違う方向に…。ドラマCDだと、もっと大変なコトに!!

紅茶って設定はどうやって出てきたんだったけ…？

その3. プライズゲッター詩音!!
智也とのデートでプライズの魔力に魅せられた詩音は、修業の結果スゴ腕のプライズゲッターに!! ただし完全に運だけのルーレット系は苦手らしい…。

※「プライズ」とは、クレーンゲームなどの景品のコトです。

小夜美と詩音の裏ドラナイトinノベライズ！

小説版「メモリーズオフ」に隠された真実とは!?

Text by Chabo-h

遠く耳を澄ませば聞こえるあの笛の音…

♪ぴぃーぷーぱーぷぷ～
…ぽえぽえむほぉ～ん♪
小「なんだか妙ちくりんな音響から始まりました今回のウラドラナイト。担当は私、霧島小夜美と」
詩「…双海…詩音です」
信「稲穂信ですっ！」
小「あれ？　なんで稲穂君がまぎれこんでるの？」
信「な、なんでって…」
詩「…どなたでしょうか？」
信「…うぅ…どうせ、どうせ俺なんて話を転がすためだけに出てくる便利キャラなんだよぉぉぉぉ!!」
小「い、いきなり悲痛な叫びからきちゃったわね」
詩「事実ですから…」
信「本編で唯笑ちゃんに気のあるところ見せたら、唯笑ちゃんファンに怒られるし、小説版で告白しようとしたら、詩音ちゃんファンに刺されそうになるし…」
小「…出番があるだけいいじゃないの…私なんて、私なんてねぇ、登場したときには名前すらわからないままなんだから！」
詩「…というわけで、今回は小説版の謎について迫っていきたいと思います。なお、ネタバレを多数含みますので、未読の方にはオススメできません。
…ピンポンパンポーン」

小「まぁ、よく言われるのが『全員を無理矢理登場させてるから内容が薄い』ってことかしらね」
詩「それは単純に、作者の力不足でしょうね。クライアントからのな条件を満たすだけで、精一杯だったということなのでは？」
小「そんなにいろんな条件があったのかしら？」
信「まぁ、ゲーム原作モノだからね。メーカーと編集のチェックが通らないといけないわけだし」
詩「しかも、編集系の方々は私たちについて何…むがふぐぅ!?」
小夜美のベアハッグ炸裂！
小「…ふぅ、アブナイ…この先、仕事が来なくなったらどうするのよ？」
詩「失礼いたしました」
信「立ち直り早ッ！」

小「細かいトコだと『改行や行頭がおかしい所が多すぎる』ってのもあるわね」
詩「要するに、きちんと校正をしているのか…とおっしゃりたいわけですね？」
小「著者校正と外部編集、内部編集、校閲までチェックしたハズなんだけどね」
信「全員、〇〇だったってことじゃ…ぐ、もがぁ！」
小夜美必殺、投げっぱなしジャーマンが炸裂！
小「まったく、あんたまでなんてコト言うのよ！」
信「…」
詩「一応、重版分から直っているらしいです。現時点では確認していないので、なんとも言えませんけど」
信「…（未だ沈黙）」

小「あとは、あとがきにもあった小ネタの元ネタに関する質問もあったわね」
復活の信「ネコ詩音ちゃんはささきさんの同人誌、みなもドリルは某所で流行った(?)みなもタ〇ク系のネタだったりするような」
詩「それぐらいならともかく、小夜美さんが中〇〇太郎、担任の先生がフィ〇〇〇ラルドなんて、誰が気づ

ポスタードリーマ〜の
アミューズメント景品は
非売品
でス
某イベントにて
メモオフポスター全6種中
唯笑ポスターのみ
パネルの色が違ってた
のに、お気づきでしたか？
金色だ！
この絵柄
には…!!
背景ちがいの
別バージョンが
存在するのだ〜！
あ〜、あ、言っちゃったヨォ〜。
これのデザインのために
ゲーム中の原画を
たくさんかりたんだけど
なくしちゃ大変だって
思って、帰りの電車は
えらくきんちょうしたっス…重いし。
ま〜っ、ほんとは
持ってくるハズのパネル
まちがってただけ
なんだけどネェ〜。
おっこら！
…いや…スペシャルに気づいてほしいって気持ちも
あったのよ。ほんと…
良い子は
ちゃんと！
ゲームでとろうネ
メモオフポスター。
みんなはとくに
もってるよネ？
2つ結きもえ！
みなもぐぅぁ〜！
有村まどか 2000

しまったメモオフ中の出来事じゃないや

「メモオフ」本編の作画を
かなり描いてた、たかいです。
登場キャラの中で、一番の
お気に入りは詩音なんですよ。
描いていてホント楽しかった。

最初は、みなもが
気に入っていたけど
終わってみると詩音
の虜になってたりし
て…（笑）

たくさん描いているうちに匂いや
温度まで伝わって来るような感覚に
なっていったんです。爽やかな匂い
や体温が伝わってくるキャラは希少
で、とても思い入れがあるんですよ。

今回はお誘いいただき、どーもです。
思い起こせば「メモオフ」って結構大変
でしたね。とりあえず仕事は作画を中心
にやってたけど、最後までどんなものが
出来上がるのかわかんない作品でした。

物作りのわかってない人が、
上にいたのでメチャ苦労したん
だよね。頼むから口挟まないで
くれって、いつも心の中で叫ん
でたのを覚えています。完成し
たのは奇跡としかいえないよね

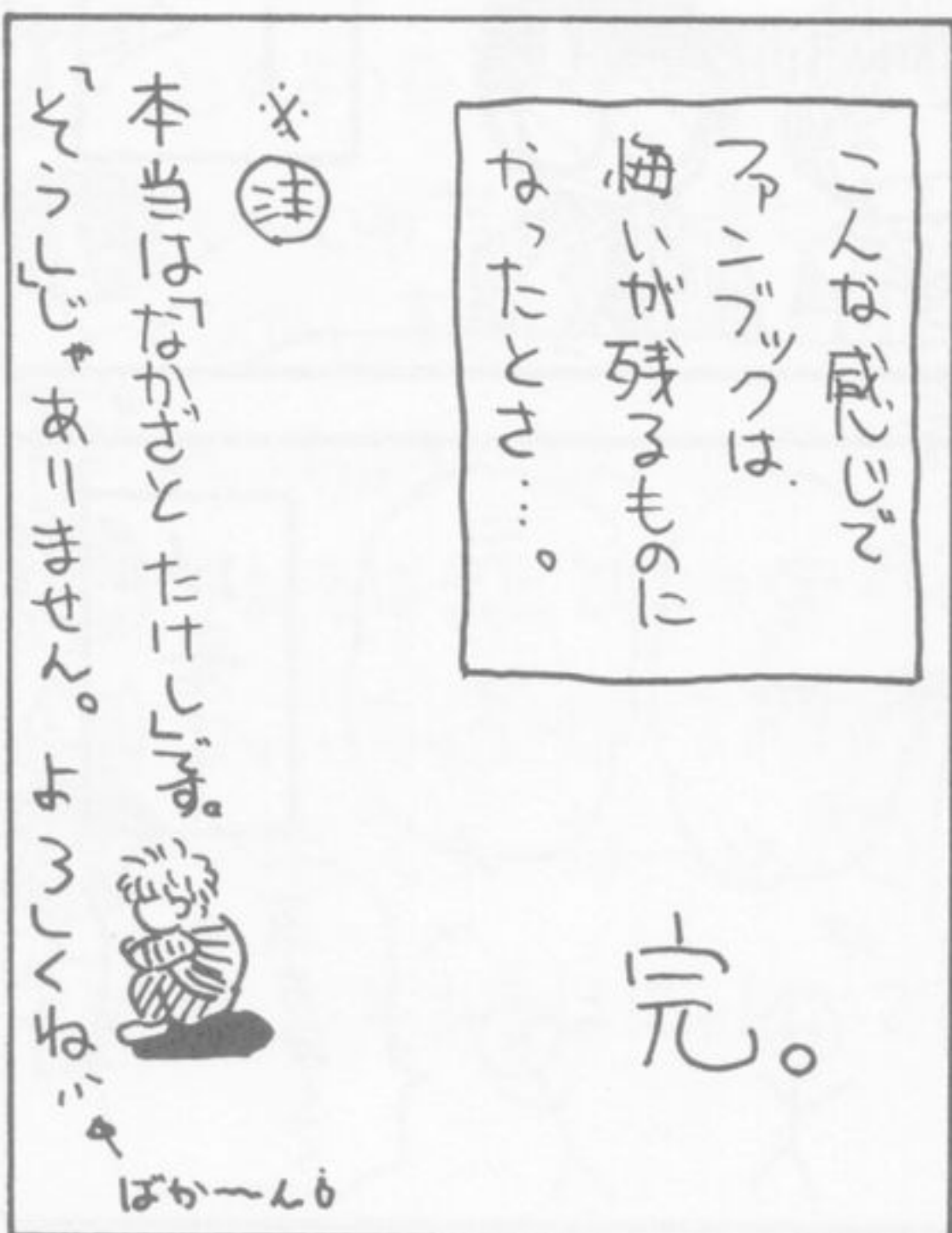
時間の無い状況で間
に合わせ的な所があっ
たので心残りがある。
できればイラストの様
なシーンをたくさん入れ
てみたかったですね。

季節が秋からだった
ので、仕方なかったん
ですが…
プラスでも追加作画
の時、出来なかったので
チャレンジしてみました。
時間の関係で３人しか
描けなかったけど許してね。

現在ギャルゲーの仕事からは遠
ざかって、寺子屋で働いてますが、
次回もなにかあったら声かけて下
さいませ。では。

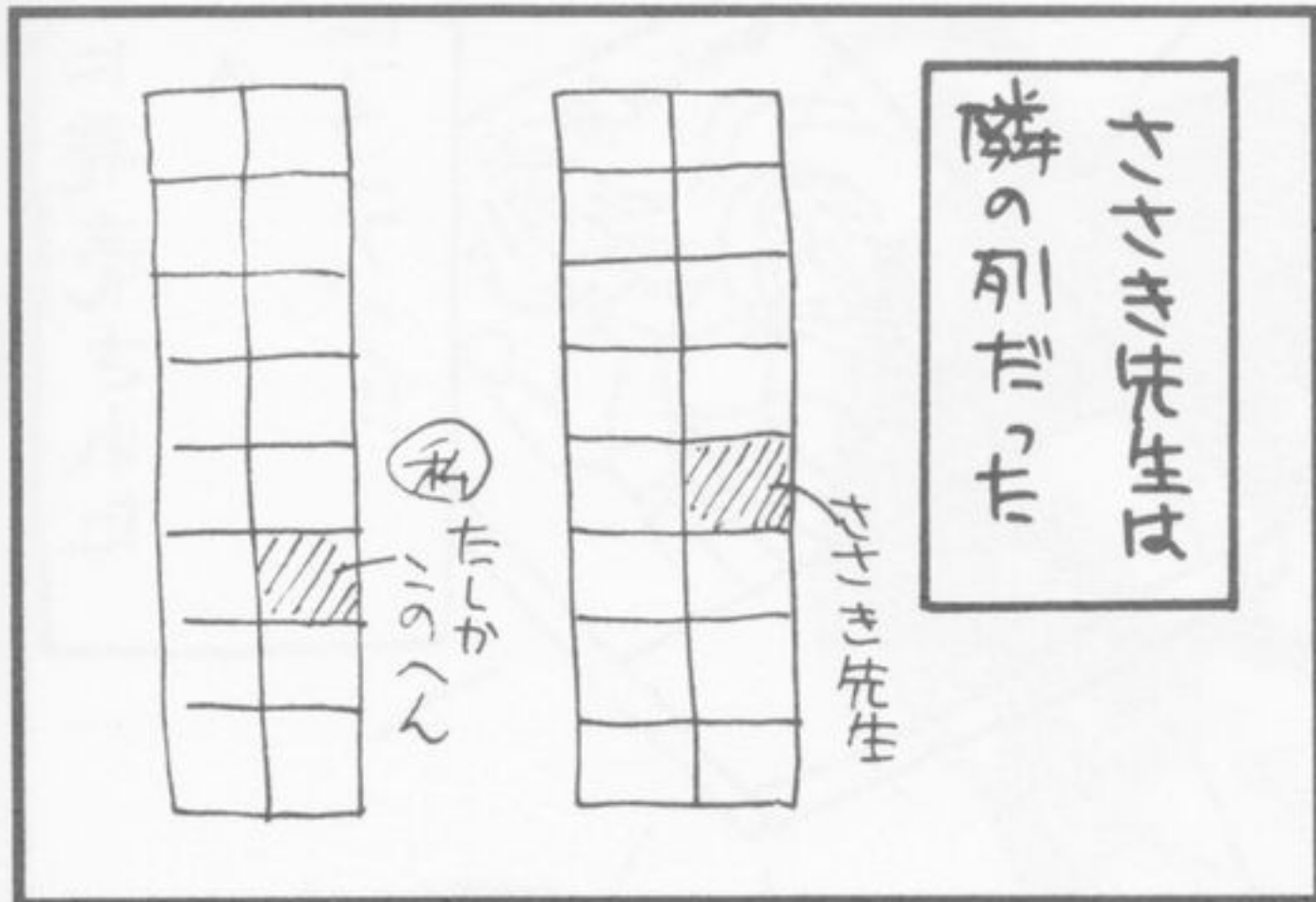
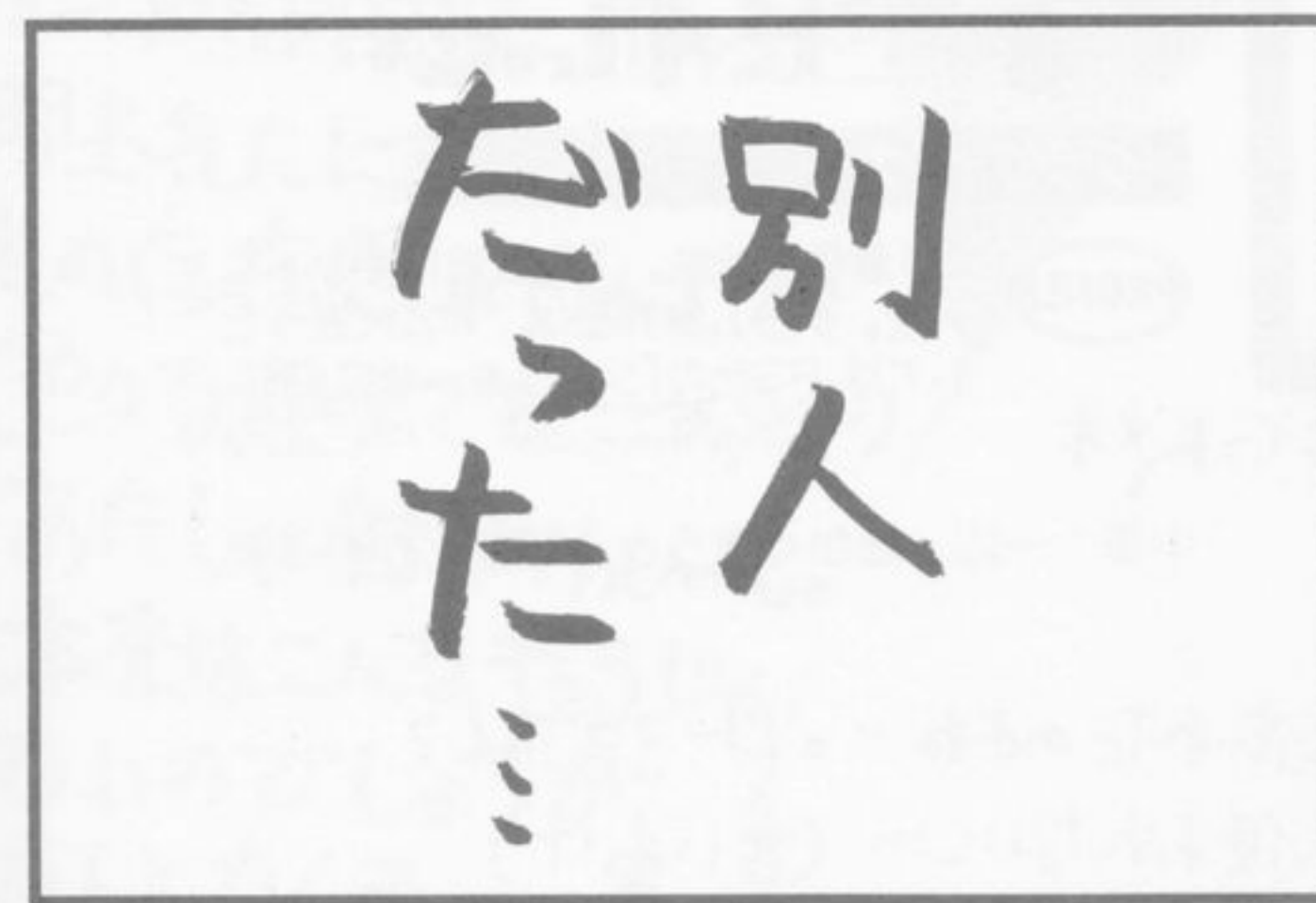
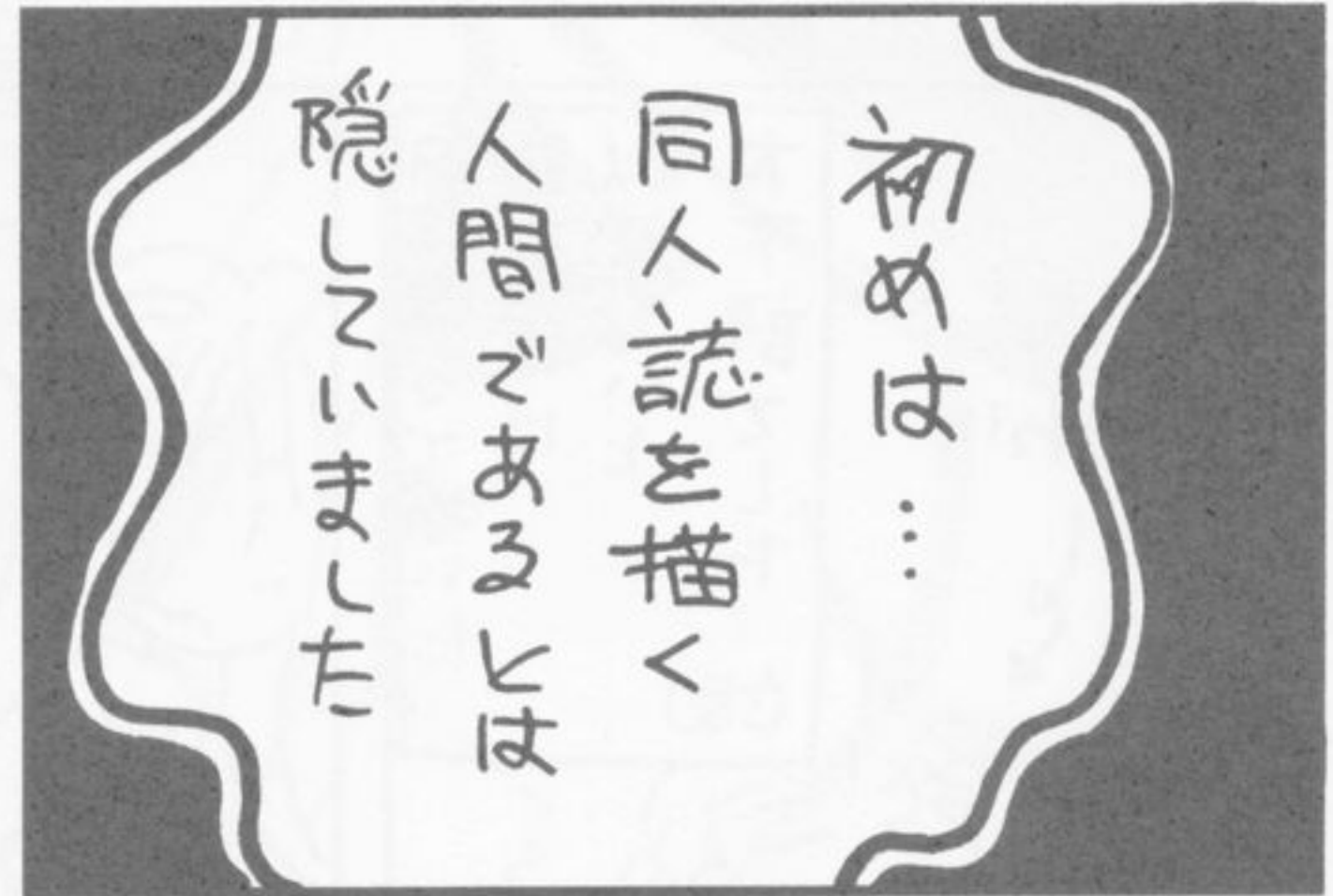
君は知るか!?
◎『メモオフ』には没キャラが
1人おりましてね、
その名は…「夢眠」。
ギャルゲーには欠かせない
(と、わたしが思っている)
ザ・眼鏡っ子でした。
ゲーム制作後半にポッと
現われたにも関わらず
その存在感のデカさで
(色々な意味でね、ニヤッ)
あたしゃ釘づけぇ～ん。
本来はこんなキャラじゃ
ないのでしょうが…
なんとなくね…。↗
↳え、なんで没ったか?
それはちょっと言えねえっス
こんなキャラがいたって
書くのもヤバイ位が。
じつはねえ…以下略。
俺

メモオフの思いで。

中里壮志 as byたけぽん

・仕事の舞台裏・

by ちーちゃん

共通の趣味・・・

去年の夏コミにて・・・

にゃんことおねずみとちゅるりの

メモオフ対談

メモオフDC・NGPにかかわってみて一番大変だったことは何ですか？

そうですねーやっぱし期間ですかねぇ‥（苦笑）
いくら時間が無いとはいえ、アレじゃあ短かすぎるのでわ…ないかと。

へ～期間はどのくらいあったのですか？

ほぼ2本同時ラインで3ヶ月ぐらいだったかなー？
あっでもCGラインのお話しですよ．
あと人数が少なすぎるのも辛いですねー

そんなに少なかったのですか？

はい。

ぶっちゃけた話し何人ぐらいですか？

ごそうぞうにおまかせします。

・・・・あ‥あのイベントCGの苦労話しでもお聞かせ下さい。

イ‥イベントの苦労話しですか…そ…そうですねー
なんかたまーにっていうか…よく煮詰まってしまって
リーダーのたけぽんさんにものすごく助けていただきました。

どんな時に煮詰まっちゃってたんですか？

えーっと 背景の効果とか…ほんのちょぴっと原画とか…（汗）
ほんとうにたいしたレベルじゃないんですけどもね…

原画ですか？

どのような所が問題だったのでしょうか？

い‥いやだから本当にささいなことなので………
しかし本当にゲーム制作するに当って時間と話し合いは大切だと思いました。

あっ‥ちゅるりさんかってに話しをしめないで下さい

それではまたどこかでおあいすることがあれば……

ちゅ…ちゅるりィ…このハゲが！勝手にしめるなって言ってるだろーが！（怒）

はげってゆーなー!!（怒） どこらへんがハゲてるか言ってみろよー!!（激怒）

…それではにゃんこ・おねずみ・ちゅるりのメモオフ対談を終わらせて頂きます。
こんなつまらない対談にお付き合い頂き
本当にありがとうございました。 ちゅるり

思い出のエピソード。

by 森しんじ

やっぱり、
キャラの性格や設定とか
全然知らずに
「みなもちゃんGoGo」
(PS版ソフマップの予約特典)
描いちゃった事かな。
まさか、あんなに
かよわいキャラだとは
思ってませんでした(笑)
ファンの皆様ごめんなさいっ。

PS版開発中
バイト仲間に聞いて
落書きで描いた「みなもタンク」。
ごく一部に大ウケ。
でも、ごく一部に大不評でした。

今回、DC版のデバックで
たっぷりやったおかげで今後、こういう
みなもちゃんを描くの、気が引けるなぁ…
(描いちゃったけど)

部外者。
KO-JI!
ミニファンブックへの参加のお誘いを頂く。
参考用に何かラフを送って下さい
担当N井田氏
はぁ～い
唯笑の全身とアップを送る(当然)
もう一枚位下さい。
はぁい
N氏が詩音がお気にと聞きつけ詩音を送る。
もうちょっとこ～動きのある絵なんかも…
はぁい
みなもも つけたれ!
唯笑にみなもも付けて動きのある(?)絵を送った数日後。
N井田さん辞めちゃったよ～
遊ばれたらしい
いや、嬉しかったんですよ
部外者故にネタがない。
KOJI!
インタネ徘徊中。M君がN氏(前出とは別)にボンコーのトンボのうち方でツッコまれてる。
わはは ほほえましいのう
同人始めて〇年目のオイラ
この内ワク外ワクにトンボまで青で印刷されてる原稿用紙さえあれば問題ないさ
N氏とのでんわ
M君 トンボ印青で印刷されてるやつ買ってないの?
え～!!! もしかしてトンボの打ち方を知らないの～!?!!
青いラインの上に黒でトンボをつけなきゃいけないらしいです。
ホントに知らんかった.

過大表現？？

中里壮志 as たけぽん

今坂さーん゛

ほえ？

ちょっとマジック貸してくれるって。

うん、いいよー゛

・今回、唯笑の表現方法の都合により、頭の色を薄めにしてあります…。

しおしおしおしおしおしお

ありがとー゛

ガラガラ

マジック貸りたよー!!!

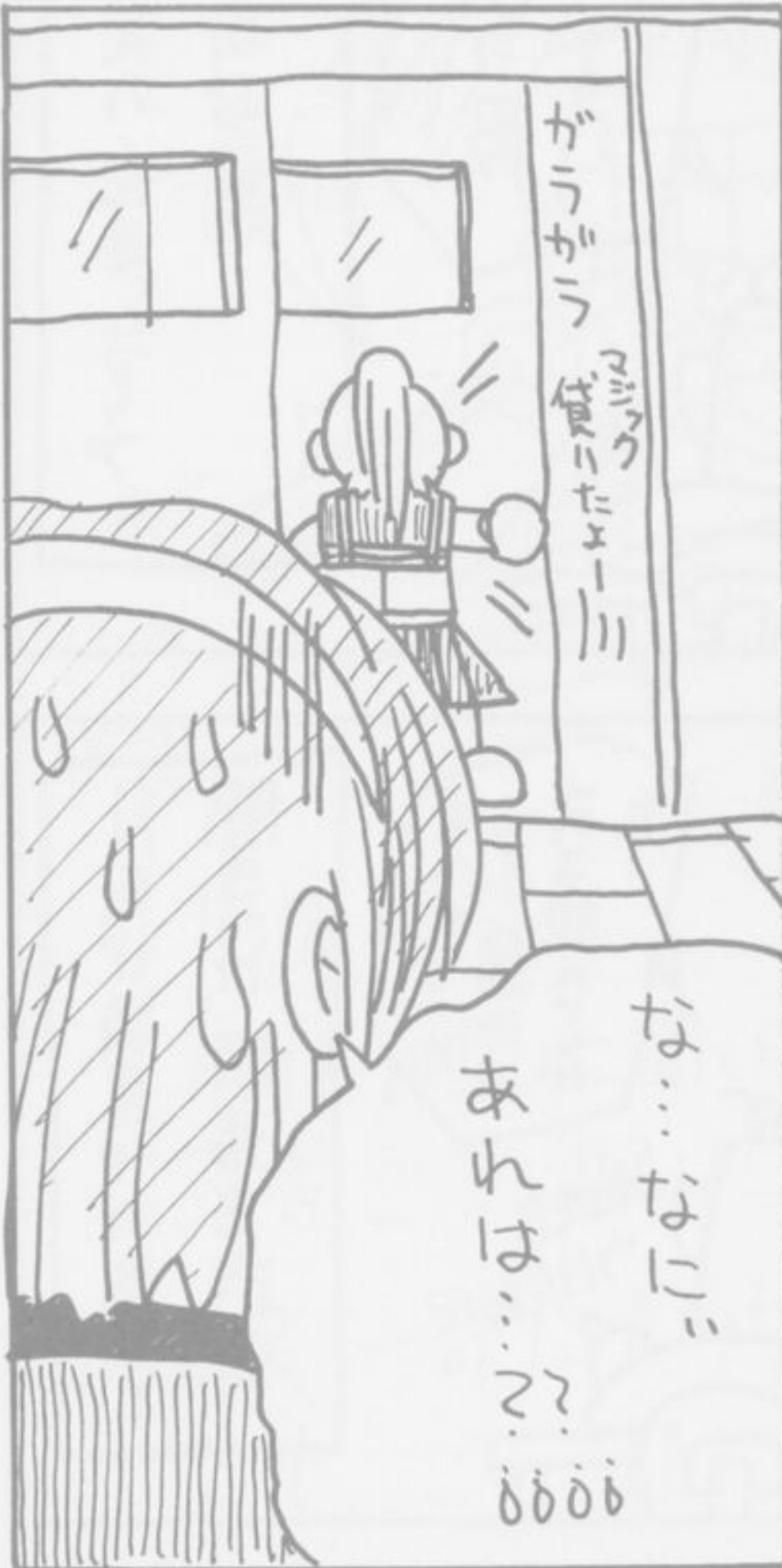
な…なにぃ

あれは…？？

いやぁ〜

今坂さんちょっと用があるんだけど

てんじょ——…

澄空学園の謎な日々はつづく…（ああ「謎」だ）

…いやあのね、教室の生徒の大きさがPSとDCで全然ちがうの。ごめんなさいごめんなさいごめんなさ

めもおふ地獄変

このメモオフが動き
出した3月…おいらは
『鬱』でした。
『ヤ-SSより…』後半から。なんでか
なんか描いても描いても
納得出来ないつまんない。

どーん

その最初、ウチの会社では
滅多にやらない(爆)グラフィック
(原画・CG)の方針会議にて
プロデューサー氏が

とヤル気満々で…
いや、そりゃかなわないまでも
ハナから負けたトコ目指そうって
言われりゃヤル気も
そがれるって。
ウツに拍車かかる

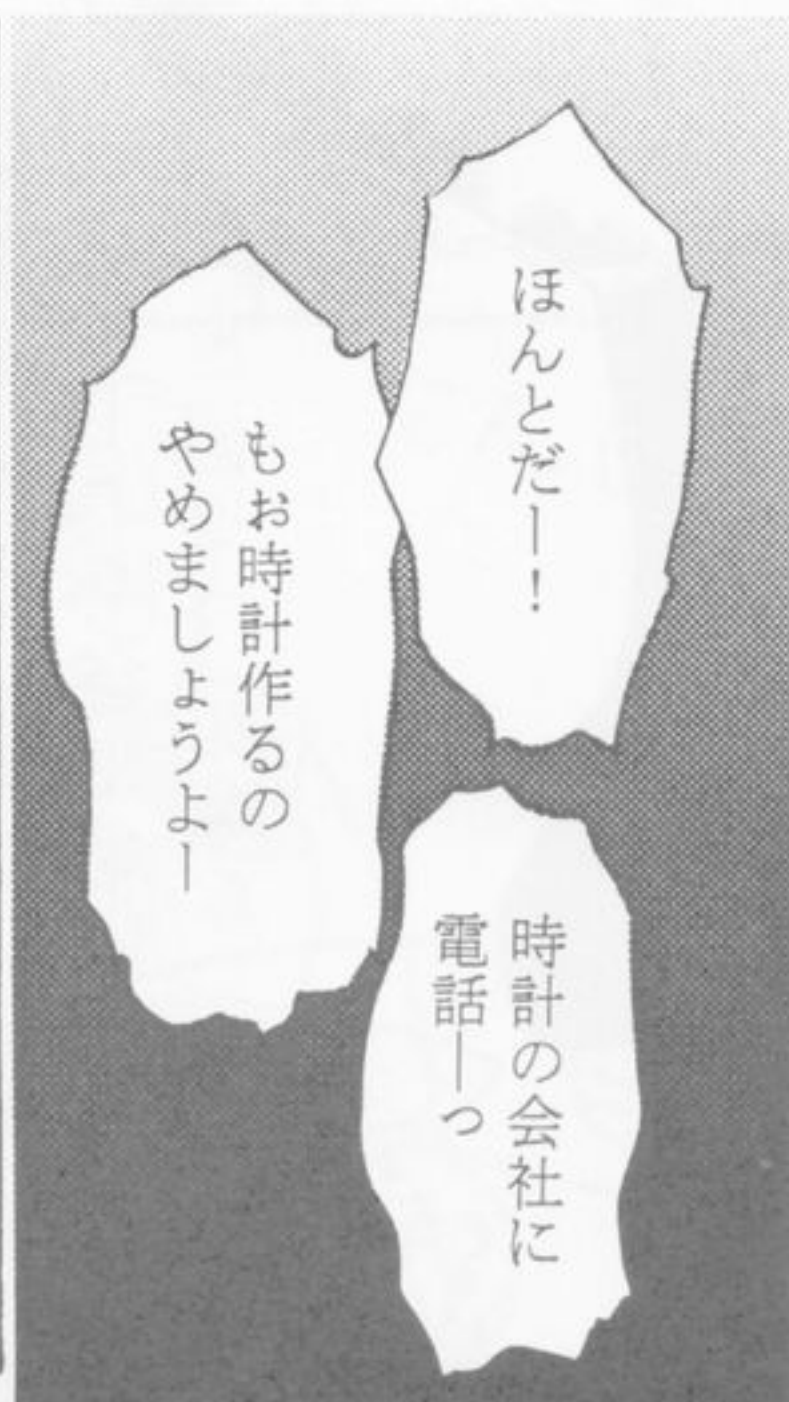
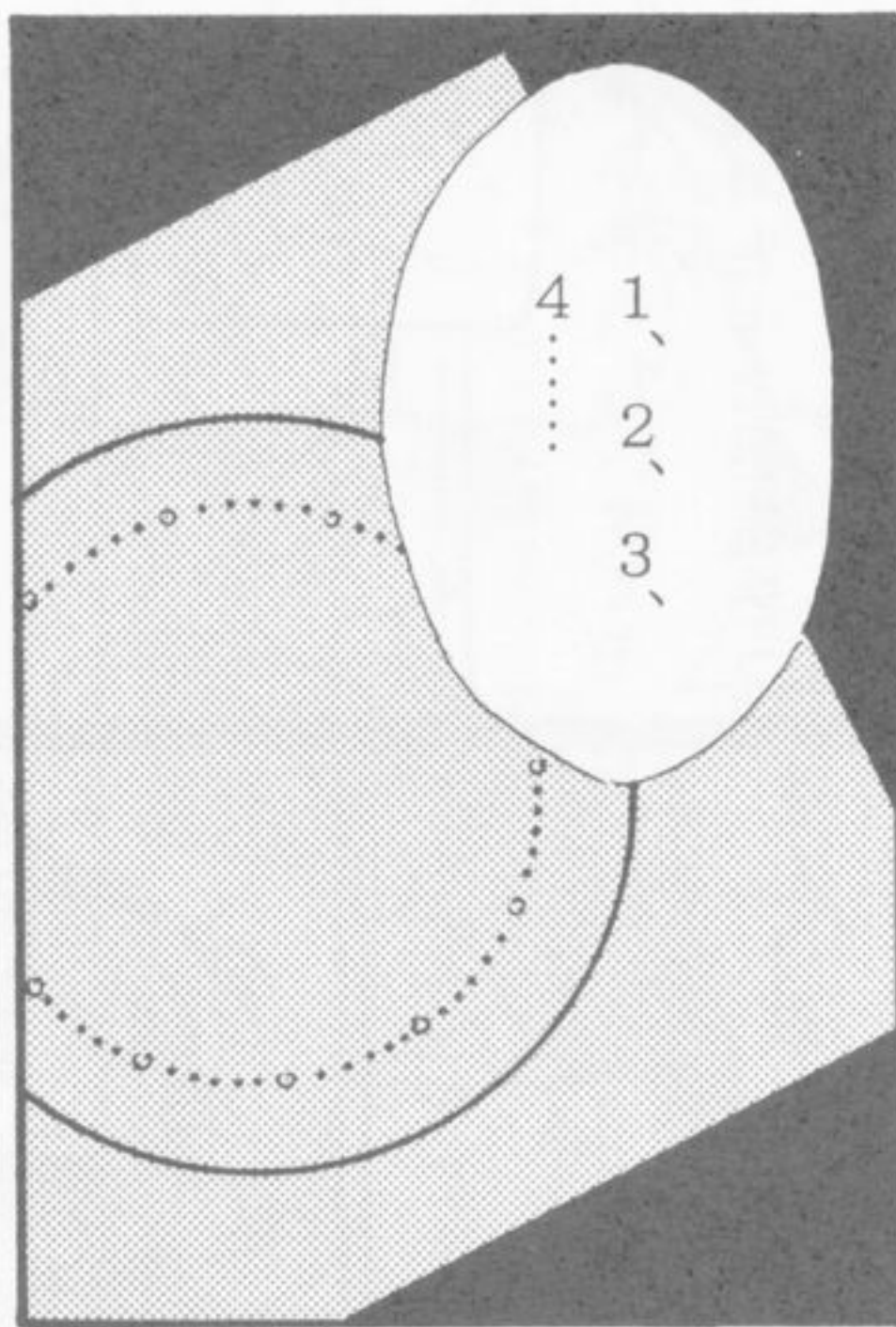
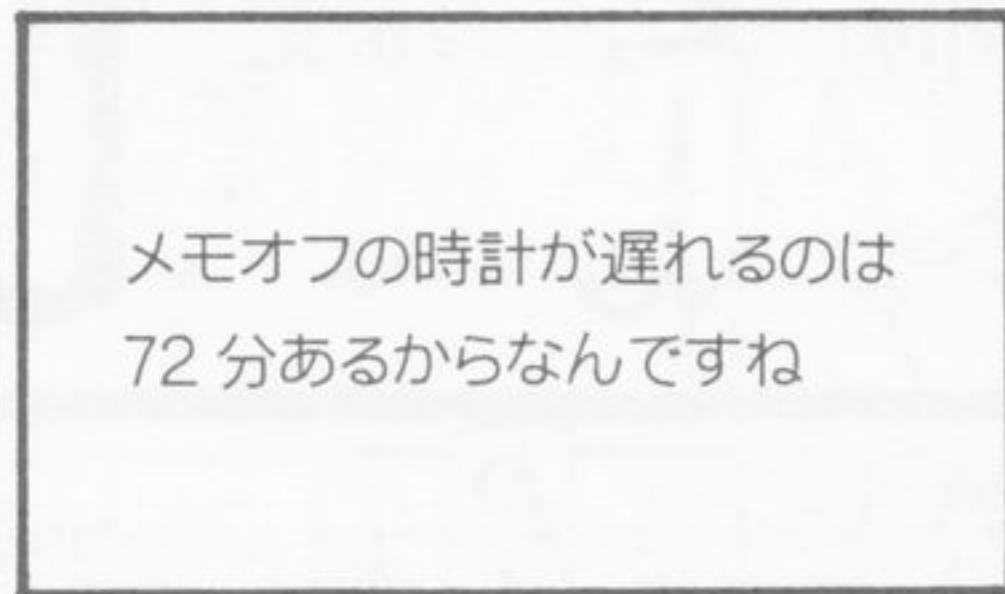
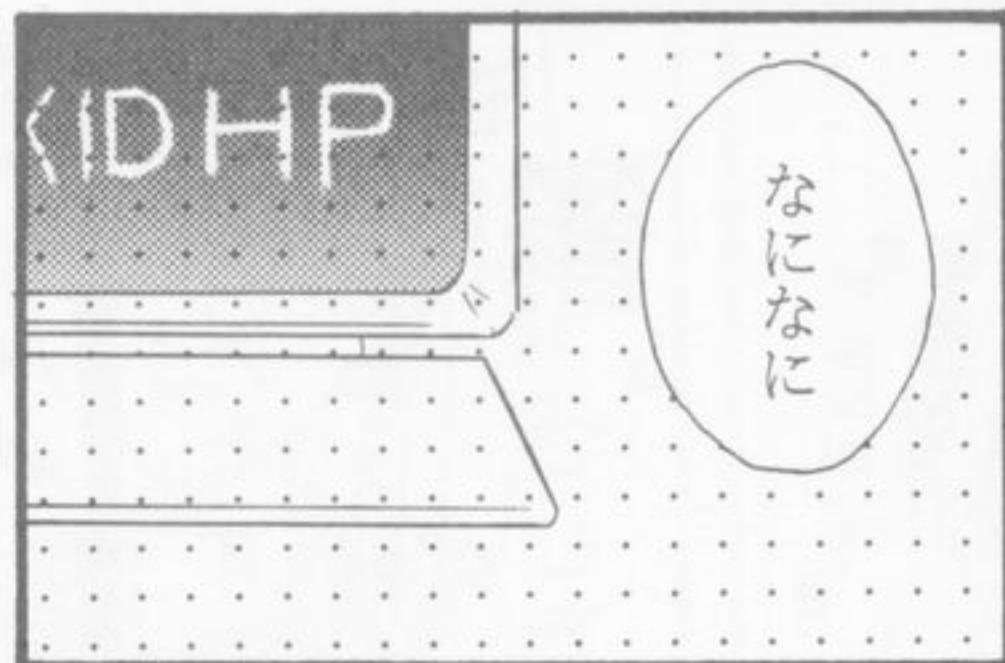
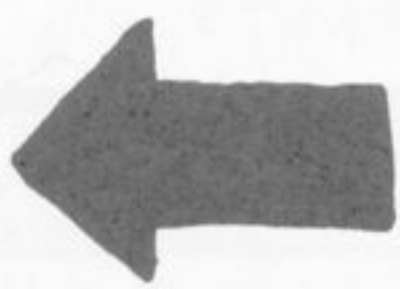
それでもお仕事。
おまんま食うためにゃ働
かなきゃいけねーす。
しがない会社人のサガ

でもキャラがよかった。
ささきさんの絵、いいです
よね。好きな絵柄のお陰で
そんな精神状態でも
やっていけたのかも。

ところがどっこい、好きでも旨く
描けるとは限らないワケだ(爆)。
販促用の仕事をやり出した時は
迷惑おかけして ささきさんに
ラフチェックしてもらったりしてました。
つーか、どの販促作画…
おわんねーっつの!!(爆)
各メモオフ本編作画さておいて
つい一週間前までって一体…(7/17現在)
おいらには、それらことが
『メモリーズオフ』でした。
次から次へ大変な作業、ユーザーさんは
ささきさん本人による絵こそを望
んでいると思うとなおさら
おいらもだし(笑) ↑ささきさん希望
ささきむつみさん、ファンの方々には
ふがいない絵ですいません。
と言いつつ この場を
締めるのでした。
ちゃんちゃん

メモオフの時計が遅れるのは
72分あるからなんですね

プレゼントだよっ。

序文

うわぁぁぁぁぁぁぁあっ！　時間が無い！　時間が無いけど、書かなければならない！
でもいったい何を書けばいいんだろう？
言いたいことがあまりにも多すぎて、何から書いていいのかわからないのです。
そこでひとつだけ、どうしても伝えたいことを書くことにします。
『メモオフを気に入って下さった皆様——本当にありがとうございます！』
掲示板やメールやアンケート葉書やファンレターで温かい言葉をかけて下さった皆様方に、心から感謝致しております。
いろんなレヴューとかでケチョンケチョンに叩かれて、廃人寸前（発狂間際）にまで追い込まれたとき、皆様の激励の言葉だけが唯一の救いとなったのでした。
特に全国のユエーの皆様には、何とお礼を申し上げればいいのやら……。これからも唯笑をよろしくお願いします。
また、メモオフに対して辛辣な御批判を下さった皆様にも、この場をお借りして感謝の意を述べたいと思います。
実際、多くの的確な御批評は、僕自身にとって、とてつもなく勉強になりました。本当にありがとうございました。
といったわけで、ただ感謝の言葉を述べるだけでは申し訳ないので、以下にささやかながらプレゼント（？）を御用意致しました。
——プレゼント？
そうです！　あの禁断の夢眠（ゆめみ）シナリオのことです！
一部の方はすでに御存知のことと思いますが、PS版メモオフのVOICEモードには……
『成沢……夢眠です』
……という謎の音声が収録されてたりします。
これは、オマケとして入れる予定だった夢眠シナリオのセリフなのですが、諸事情によりボツになった為、本編には全く登場していません。
その禁断の夢眠シナリオを、あえてここで公開することにしたというわけです。

と思って、今読み返してみたのですが……
（…………………………………………）←唖然。
あまりの駄文に凍死してしまいました。
このような醜悪な文章を、果たして掲載して良いものかどうか？
かなり葛藤しましたが、松尾さんや長妻さんが僕の耳たぶをつまみながら、世界の破滅の呪文を耳元でそっとささやき続けるので、やはり公開（後悔）に踏み切ることにしました。

ところで、この夢眠シナリオがどうしてボツになったのかと言うと？
たぶん読んで頂ければわかると思いますが……
理由①：内容が支離滅裂。
理由②：内容がツマラナイ。
理由③：内容がメモオフの世界観とかけ離れている。
当時、唯笑シナリオを脱稿したばかりの僕の脳細胞は死滅していたのです。

そんなわけで、以下の内容には全く期待しないで下さい……(^-^;
このささやかなプレゼントを、少しでも喜んで（嘲笑って）下されば幸いです。

（打越鋼太郎）

※なお諸事情により、以下のシナリオには省略している箇所（分岐等）がありますので予め御了承下さい。

夢眠シナリオ突入までのあらすじ

《10月3日水曜日／放課後》
信から『パソコンショップでプレゼントキャンペーンを実施中』との情報を得る。
店に行き、応募用紙に必要事項を記入して帰宅する智也。

《10月4日木曜日》
帰宅した智也の元に、1台のパソコンが届く。
どうやら昨日の『無料パソコン進呈キャンペーン』に当選したらしい。
しかし、パソコンに関してまったく知識の無い智也。
とりあえずマシンを起ち上げる前に、入門書？みたいなのを読んで、最低限必要な操作方法等を習得する。

《10月5日金曜日》
家に帰った智也は、昨夜の勉強の成果を試すべく、早速マシンを起動。
インターネットとやらに接続し、適当にリンク先を飛び回る。
やがて……とある怪しげなチャットサイトに踏み込んでしまった智也。
そこで『大将軍』『トロイ』『さやか』という3人の人物と知り合い、物語は幕を開ける。

大将軍：別に誤魔化そうとしてるわけではないんだが？
さやか：まっ、いいけどね♪
さやか：ってことで、わたしはそろそろ落ちるよ？
トロイ：やけに早いね？＞さやか
さやか：うん、ちょっと、やらなきゃいけないことがたまってて。
トロイ：そっか。
大将軍：それじゃあ私も、失礼するかな。
トロイ：なんだよ、大まで落ちるのか？
大将軍：ああ。私も、ちょっとね。
大将軍：BをAに戻さなければならない（笑）
トロイ：じゃあ僕も、寝ることにしよう。
さやか：バイバイ♪
トロイ：じゃあ、また。
大将軍：それでは……。
『さやかさんが退室されました』
『トロイさんが退室されました』
『大将軍さんが退室されました』

／／《10月7日日曜日》へ……。

★分岐Ⅰ－B（トロイについて聞いてみよう）
智也　：トロイって、何をやってる人？
トロイ：僕？
トロイ：まあ『いろんなことをやってる』とも言えるし『何もやってない』とも言えるね。
智也　：ん？　よく分からないんだけど？
トロイ：いいんだよ、それで。よく分からなくっていいんだ（笑）
トロイ：さっきも大が言ってたけど……
トロイ：ここでは経歴とか年齢とか、そんなものは一切関係ないんだし……
トロイ：何にも分からなくても、別に問題はないんじゃないかな？
智也　：確かに、それはそうかも知れないけど……
智也　：でもある程度の情報がないと、会話なんて成立しないと思う。
トロイ：ある程度の情報？
智也　：うん。
さやか：トロイって、ほんとに自分のこと話したがらないよね？
トロイ：（^-^;
トロイ：でも別に、やましいことがあるわけじゃないよ？（笑）
大将軍：トロイはただ、この世界の中にはあまり現実を持ち込みたくないだけなんだろ？
トロイ：要するに……そういうことかな？
トロイ：でも、せっかく聞いてくれたのに、答えないっていうのも失礼かも知れないね？
さやか：そうだそうだ！　失礼だぞぉ～。
トロイ：僕は学生だよ。
トロイ：某大学の文学部で心理学を専攻してる。
トロイ：正確に言うと『してた』かな？
トロイ：好きな食べ物は『発酵したもの』
トロイ：チーズとかヨーグルトとか納豆とかね？
トロイ：特技はバーコードを読むことで、趣味は時計の秒針を眺めること。
トロイ：こんな感じでどうかな？
トロイ：『ある程度の情報』になり得ただろうか？
智也　：うん。十分だよ。
智也　：ありがとう、トロイ。
トロイ：ってことで、僕はそろそろ落ちるよ？
さやか：あ！　私も落ちようと思ってたとこ。
さやか：ちょっとやんなきゃいけないことがたまってて。
大将軍：それじゃあ私も、失礼するかな。
さやか：バイバイ♪
トロイ：じゃあ、また。
大将軍：それでは……。
『さやかさんが退室されました』
『トロイさんが退室されました』
『大将軍さんが退室されました』

／／《10月7日日曜日》へ……。

《10月6日土曜日》
大将軍：やあ＞智也君
トロイ：おはよう。
さやか：おはよ、智也♪
智也　：おはようございます。
さやか：約束どおり、ちゃんと来てくれたんだ？
智也　：もちろん！
智也　：約束は必ず守ることにしてるんです！
トロイ：必ず？
智也　：訂正します。
智也　：約束は『だいたい』守ることにしてるんです。
さやか：（笑）
大将軍：あっ、智也君？
智也　：はい？
大将軍：昨日言い忘れてしまったけれど、ここでは『敬語』を使う必要はないんだよ？
大将軍：ここには、身分だの経歴だの年功序列だの男尊女卑だの……
大将軍：そういったあらゆる下らない差別は存在しないんだ。
トロイ：そう！　本当の意味で、平等な世界なんだ、ここは！
さやか：だから智也も敬語は禁止！
さやか：ね？
智也　：はい、わかりました。
さやか：だからそれがダメなんだってば（^-^;
智也　：あっ、そっか。
さやか：（笑）
智也　：ところで、オレが来るまで何の話をしてたの？
トロイ：いや、他愛の無い話だよ。
智也　：他愛無い話？
トロイ：うん。
トロイ：例えば『空は何で青いのか？』ってことについて。
大将軍：そうだ！　智也君は、どう思う？
智也　：？？？
大将軍：空は、何で青いんだと思う？
智也　：……緑じゃ、不気味だから？
大将軍：ははは、確かにそうだな。
大将軍：空が緑色をしていたら……
大将軍：まるで苔むした独房の中に閉じ込められているような、そんな気分にもなりかねない。
トロイ：間違っても『海岸で日光浴』なんて気にはならないよね？
さやか：う～ん……でも……
さやか：空が薄っすらと、淡いエメラルドグリーンに輝いてるとしたら……
さやか：それはそれで、なかなか幻想的かも知れないよ？
大将軍：『幻想的』？
大将軍：『草原的』の間違いじゃないのかい？
トロイ：はははははっ
さやか：もぉ！
（――中略――）
そう言えば、オレはこの3人について、ほとんど何も知らないよな……。
ここはひとつ、探りを入れてみるか。
智也　：あの……ちょっと質問してもいいかな？

★選択Ⅰ
〝大将軍について聞いてみよう〟――分岐Ⅰ－Aへ……。
〝トロイについて聞いてみよう〟――分岐Ⅰ－Bへ……。
〝さやかについて聞いてみよう〟――分岐Ⅰ－Cへ……。

★分岐Ⅰ－A（大将軍について聞いてみよう）
智也　：大将軍って、何をやってる人？
大将軍：ごく普通の会社員だよ。
智也　：へえ～、社会人なのか～。
智也　：で、それって何の会社？
大将軍：何の？　う～ん……何と説明すればいいのだろう？
大将軍：例えばAというものをBにしたり、CというものをDにしたり、時にはBをAに戻したり……。
智也　：？？？
大将軍：そういった下らない、不毛な仕事を扱ってる会社だよ。
大将軍：何も生まれないし……何の役にも立たない……。
大将軍：いや、ごく一部の人間には役立ってるらしいけれど……。
さやか：そうやっていっつも意味深なこと言って誤魔化すんだから＞大

あのサイトを閉鎖しなければならなくなってしまったんだ。
たいへん申し訳ないが、ひどく込み入った事情があって、
今ここで、その理由を説明することはできない。
それに今回の事は、私にとっても寝耳に水であったし、まだ自分の中でうまく整理できずにいるのだよ。
是非、理解して欲しい。
それでは……。

……と言われても、何だか釈然としなかった。
試しに、例のページへとアクセスしてみる。
『Not　Found』
真っ白な画面に、こんな文字が現れた。
何度も何度も試みるが、やはり結果は同じだった。
ふと気がついて、メールをそのまま『返信』してみる。
すると間もなく、難解な英文とともに、今出したばかりのメールが送り返されて来た。
どうやら『宛先不明』ということらしい。
（ほんとにどうしたんだろう？）
さやかやトロイに聞いてみたいところだったが、残念ながら、彼らのメールアドレスをオレは知らない。
オレは諦めてPCの電源を落とすことにした。

／／※以降通常ルートへ復帰（夢眠エンドには行けません）

★分岐（前日I－Cを選択していた場合）
差出人の名前は……『さやか』
それはさやかからのメールだった。
下に文面が表示されている。
早速読んでみると……

おはよう♪　智也！
昨日は遊びに来てくれて、どうもありがとう。
いきなりだけど、本題に入るよ？
実は昨日、チャットを抜けた直後に大将軍からメールが来てね？
あのサイト、閉鎖しなきゃならなくなっちゃったんだって！
だけどそのメールには、意味深で遠回しな事ばかりしか書いてなくって、
直接的な閉鎖の理由は全然分からないの（ToT
すぐに返信したんだけど、いまだに返事は送られて来ないし。
で、とにかく、もうあのページには行けなくなっちゃったわけで……
……ってことはつまり、智也と私の接点もなくなっちゃったってことじゃない？
でもせっかく友達になれたんだし、このまま会わなくなるっていうのも、ちょっと淋しい気がして……。
だからね？　今度私がＨＰ作った時に、ぜひそこに遊びに来て欲しいんだ♪
たぶん最初はＢＢＳぐらいしかないと思うけど、近いうちに必ずチャットページも加えるつもりだから！
ん？　何か宣伝みたいでやだな……（^-^;
別にそういう意味じゃなくって、ほんとにほんとに、智也ともう一度会いたいから♪
だからもしよかったら、遊びに来て下さい。
ということで、それじゃ……バイバイ（^-^/~~

……と言われても、URLが分からない以上、遊びに行きようがない。
オレはひと言『アドレス書き忘れてるぞ？』とだけ書いて、さやかに返信メールを送った。
すると間もなく、難解な英文とともに、今出したばかりのメールが送り返されて来た。
どうやら『宛先不明』ということらしい。
智也（へ???）
不思議に思いながら、とりあえず念の為、試しに例のページへとアクセスしてみる。
『Not　Found』
真っ白な画面に、こんな文字が現れた。
（おいおい、完全に接点は断たれてしまったみたいだぞ、さやか？）

★分岐I－C（さやかについて聞いてみよう）
智也　：さやかって何やってる人？
さやか：天下無敵の高校生なのだぁ！
智也　：え？　そうだったのか！？
さやか：そうだったのだぁ！
智也　：何年？
さやか：２年だよ？
智也　：ぐはっ！　オレも高２だぞ？
大将軍：つまり２人は同い歳ってわけか？
トロイ：どうやらそうらしいね。
智也　：どこの高校？＞さやか
さやか：それは言えないよぉ～。
智也　：なんで？
さやか：だって、もしも……
さやか：もしも同じ高校だったとしたら、どうする？
智也　：別に、どうもしない。
さやか：えええっ！？　私は……ちょっと困るよぉ！
さやか：って言うか、恥ずかしいっ！
さやか：同じ学年だし……ね？
トロイ：ちなみに『智也』って名前に心当たりはあるの？＞さやか
さやか：実は……あるの。
さやか：うちのクラスにいるの。
さやか：同じ漢字で『智也』って名前の生徒が！
大将軍：それで名字は？
さやか：そんなの口が裂けても（もとい）指が砕けても教えられないよぉ！
さやか：もし名字まで同じだったとしたら！？
さやか：ね？　だからこの件に関しては、お互い触れないってことで！
智也　：うん……まあ、さやかがそう言うなら。
さやか：さてと、一件落着ってことで、私はそろそろ落ちるね？
トロイ：あっ！　僕も今、ちょうど落ちようと思ってたとこだ。
大将軍：それじゃあ私も、失礼するかな。
さやか：バイバイ♪
トロイ：じゃあ、また。
大将軍：それでは……。
『さやかさんが退室されました』
『トロイさんが退室されました』
『大将軍さんが退室されました』

／／《10月7日日曜日》へ……。

《10月7日日曜日》
朝、目覚めたオレは、再びマシンを起ち上げた。
『1通の新着メールがあります』
――メール???
この2日間で、オレはインターネットに関する様々な知識を習得してきた。
メール……もちろんそれがどんなものなのかということも、ちゃんと知っている。
ちゃんと知っているけれど、使ったことは一度もなかった。
誰に送ったこともなければ、誰から送られて来たこともない。
つまり今回のやつが、記念すべき『受信メール第1号』というわけだ。
智也（でも、いったい誰からだろう？）
ちょっとワクワクしながら、オレは受信画面を開いてみた。

★分岐（前日I－Aを選択していた場合）
差出人の名前は……『大将軍』
それは大将軍からのメールだった。
下に文面が表示されている。
早速読んでみると……

やあ、智也君。
昨日は遊びに来てくれてありがとう。
いきなりだが、本題に入らせてもらうよ？
実は昨日、私が加入しているプロバイダから連絡があってね。

トロイ：つまりこの世界自体が、ひょっとしたら誰かの作った仮想空間に過ぎないんじゃないかってさ？
智也　：は？　なに寝ぼけたこと言ってんだ？
トロイ：寝ぼけたこと？
智也　：ああ、そうだ。
智也　：いいか、トロイ？　現実は現実、仮想は仮想はなんだ。
智也　：現実が仮想になることもなければ、仮想が現実になることもまたない。
智也　：オレは現実にここにいるし、トロイは現実にそこにいる。
トロイ：なぜ？　どうして分かる？
智也　：えっ？
トロイ：僕が現実の存在だって、なんで言い切ることができるんだい？
トロイ：会ったこともないのに！
トロイ：声を聞いたことさえないっていうのに！
トロイ：結局、現実と幻の違いなんて、僕らには証明することはできないのさ。
トロイ：いや、何も僕は、あのページが幻だったってことを言ってるわけじゃないよ？
トロイ：あのページは確かに現実に存在したんだと思う。
トロイ：ただし、その『現実』自体が現実に存在するかどうかは、誰にもわからない。
トロイ：それを言いたかったんだ。
トロイ：あっ……ゴメン。
トロイ：ダラダラと下らない話をしすぎてしまったみたいだね？
智也　：いや、別に構わないけど。
トロイ：ありがとう。
トロイ：とても参考になったよ。
智也　：えっ？
トロイ：それじゃあ、また……。

／／《10月8日月曜日》へ……。

《10月8日月曜日》
乳白色にかすんだ光が、部屋中に満ちている。
それはまばゆいばかりの朝の光だった。
オレはいつものように体を起し、目の前の壁を数秒程見つめる。
見つめながら、頭の中のスイッチを、OFFからONへと切り替えるのだ。
がしかし、ときにはその切り替えが、うまくいかないこともある。
カチカチカチカチと、何度押しても点灯しない、つながらないことが……。
それがまさに、今日だった。
ぼーっと壁を見つめながら、オレはその不具合の原因について考えてみる。
原因は、たちまち見つかった。
——トロイ。
昨日のトロイとの会話が、やけに気になっていたのだ。
そろそろ学校に行かなければマズい時間……。
けれどスイッチがONにならない以上『学校に行くぞモード』もまた発動することはない。
智也「よしっ、決めた！」
早速、オレはマシンの電源を入れ、ICQに接続した。
トロイ：やあ！＞智也
トロイ：こんな時間にどうしたの？
智也　：まあ、ちょっとね。
トロイ：ん？
トロイ：ってことは、僕に会いに来てくれたわけじゃなかったってことかぁ。
智也　：いや、実はそうなんだ。
トロイ：えっ？　僕に会いに？
智也　：会いに……と言うか、ちょっと話したいことがあって。
トロイ：話？　話って……何？
智也　：うーん……。
智也　：それがまだ、言いたいことがちゃんとまとまってなくて……。
トロイ：なんだよ（笑）
トロイ：それじゃあ、僕の方から話をしてもいいかな？

大将軍やトロイに聞いてみたいところだったが、残念ながら、彼らのメールアドレスをオレは知らない。
（まぁ、待ってりゃそのうち、また向こうからメール送って来るだろう）
オレは諦めてPCの電源を落とすことにした。

／／※以降通常ルートへ復帰（夢眠エンドには行けません）

★分岐（前日１－Bを選択していた場合）
差出人の名前は……『トロイ』
それはトロイからのメールだった。
下に文面が表示されている。
早速読んでみると……

> やあ、智也。
> いきなりだけど、大至急、君に伝えなければならないことがあるんだ。

（内容省略／この後ICQを使って智也とトロイ２人っきりのチャットが始まる）

トロイ：おはよう！＞智也
智也　：おはよう。
トロイ：やっぱり、ちゃんと来てくれたんだね？　ありがとう！
智也　：で？『大至急伝えなければならないこと』ってのは？
トロイ：ああ、それがね？
トロイ：実は昨日、チャットを抜けた直後に『大』からメールが来たんだ。
トロイ：それで、彼が言うには、どうやらあのサイト、閉鎖しなければならなくなってしまったらしい。
智也　：え！？　閉鎖って、どうして？
トロイ：うん、それがね？
トロイ：そのメールには、意味深で遠回しな事ばかりしか書いてなくて、
トロイ：直接的な閉鎖の理由に関しては、今の所、皆目見当もつかないんだよ。
智也　：そっかぁ……無くなっちゃったのかぁ、あのページ。
トロイ：うん。
トロイ：でもほんとのこと言うと、それは口実に過ぎないんだけどね？
智也　：えっ？
トロイ：本当は、君と話がしたかったんだ。２人だけで……ゆっくりと……。
トロイ：それでこうやって、君を呼び出したってわけ。
トロイ：だから『大至急』っていうのも嘘なんだ。
トロイ：そうやって書いておけば、誰だって気になるからね？
（おいおい、ひょっとしてヤバいんじゃないのか、こいつ？）
トロイ：だけどさ、それにしてもほんとに不思議だよね？
智也　：何が？
トロイ：あのサイトのことだよ。急に閉鎖なんてオカシイと思わないか？
智也　：うーん。
智也　：大将軍のメールには、一体何て書いてあったんだ？
トロイ：『ひどく込み入った事情があって』って、それだけしか書いてなかった。
智也　：それじゃ確かに、皆目見当もつかないよな？
トロイ：何だか変な感じがするよ。
トロイ：目の前から忽然と姿を消してしまったわけで……。
トロイ：まるで、砂漠の蜃気楼みたいにさ。
トロイ：もしかしたら、あるいは僕らは、幻のページを見ていただけだったのかも知れない。
トロイ：誰かのたくらみに乗せられて（笑）
智也　：それはちょっと飛躍し過ぎじゃないか？
トロイ：そうかな？
智也　：そうだろ。
トロイ：じゃあ、智也？
トロイ：少し話はそれるけど、こんなことを考えたことはないかな？
トロイ：この目の前に見えている現実の世界は、本当は全て『幻』なんじゃないかって。

ないだろ？
トロイ：うん。確かに。
トロイ：確かに僕は、マトモじゃないかも知れない。
トロイ：君と同じようにね？
智也　：おいおい……。
トロイ：おや？　否定するのかい？
トロイ：君はきっと気づいてるハズだよ。
トロイ：自分が、僕と同じタイプの人間だっていうことに……。
智也　：勝手に決めるな！
トロイ：勝手に決めたわけじゃない。
トロイ：君の発言の随所に、そのことはしっかりと現れていたんだ。
智也　：？？？
智也　：なあトロイ？　もっと単刀直入に言えないのか？
智也　：分かりやすく、ひと言で！
トロイ：ああ、ゴメンゴメン（笑）
トロイ：でも分かりやすく言うことはできても、残念ながらひと言で説明することはできないな。
トロイ：だから順を追って、話を進めて行くよ？
トロイ：まず前にも言ったけれど……
トロイ：ここ……つまり『ネットの世界』こそが、
トロイ：本当の意味での平等な世界だっていうのは、理解できるよね？
智也　：いや、まったく。
トロイ：う～ん……それって本心かな？
トロイ：僕にはそうは思えないんだけど？
トロイ：この世界には、身分とか経歴とか年齢とか性別とか容姿とか……
トロイ：そういった下らない要素（現実世界での人間の資質を決定する要素）が全く存在しない。
トロイ：と同時に、僕らはこの世界の中においては、完全に自由な存在であり続けることができる。
トロイ：誰に遠慮することもなく、誰からの拘束も受けることなく、
トロイ：僕らはなりたいモノになることができるんだ。
大将軍：え？　それは本当かい？
さやか：ほんとなの？　トロイ？
トロイ：……ってな具合にね？
トロイ：現実では決して拭い去ることのできなかった、数々の忌まわしき宿命、運命、境遇から、
トロイ：僕らは今、解き放たれようとしてるんだ！
トロイ：その魔法のような力を、今、手に入れようとしてるんだよ！
智也　：なるほど……。
智也　：それで昨日、幻だなんだと言ってたわけか？
智也　：要するにトロイは、仮想の世界だって現実となり得ると、そういうことが言いたかったんだな？
トロイ：そう！　その通り！
トロイ：もしそれが実現すれば、僕らは真の理想郷に辿り着くことができるんだ！
智也　：はぁ……。
智也　：でもな、トロイ？
智也　：おまえのその考え方って、ちょっと淋し過ぎるぞ？
トロイ：？
智也　：なんかこう……
智也　：汚らわしいものでも見るような目つきで、現実の世界を見てるんじゃないのか？
智也　：トロイの過去に、いったい何があったかオレは知らないが……
智也　：だけど現実って、思ったよりも、なかなか魅力的な世界だぞ？
智也　：そりゃもちろん醜いものは、たくさんある。
智也　：きっと醜いものの方が、美しいものよりも遥かに多いんだろうとも思う。
智也　：だけどな？　表に出て外を眺めてみろよ！
智也　：そこにも、ここにも、目に見える場所の全てに『宝物』は埋まってるんだ。
智也　：あの大木の木陰には、煌くような体験が眠っているかも知れないし、
智也　：ああ。
トロイ：実はね？
トロイ：ついさっき、なんと『大』からメールが来たんだよね！
智也　：大将軍から？
トロイ：うん。
智也　：それで、何て？
トロイ：閉鎖の理由が書いてあった。
トロイ：『プロバイダへの支払いが滞っていた為』だってさ（爆）
智也　：なんだ、結局そんな理由だったのか。
トロイ：うん、なんか笑っちゃうよね？
トロイ：ははははははははははははははははっ
トロイ：ははははははははははははははははっ
トロイ：ははははははははははははははははっ
トロイ：ははははははははははははははははっ
智也　：もう分かったよ。
智也　：だいたい、そんなに笑うようなネタでもないんじゃないか？
トロイ：いやいや、それで笑ってるんじゃないんだ！
智也　：えっ？
トロイ：別のことでね？　なんか考えたら可笑しくってさぁ。
智也　：？？？
トロイ：ほんとはね？　嘘だったんだよ！
智也　：嘘って、何が？
トロイ：何がって、全部がさ！
智也　：全部？
トロイ：そう！　何もかも全部！
智也　：つまり、ほんとは『閉鎖』なんかされてなかったってことか？
トロイ：いや『閉鎖』はされてるよ？
トロイ：ゴメンゴメン。それだけは、本当のことだった。
トロイ：『閉鎖』は……されてるんだ。
トロイ：僕が……したんだ。
智也　：はあ？　言ってることがよくわからないんだが？
大将軍：まったくだ。きちんと説明しろ！＞トロイ
智也　：大将軍……いたのか？
さやか：私もいるよ♪＞智也
智也　：さやかまで？
トロイ：まだ分からないのか？＞智也
智也　：はは～ん、なるほどな。そういうことだったのか……。
トロイ：そう。そういうことだったんだ。
トロイ：『大将軍』や『さやか』は、あくまでもダミーに過ぎなかったのさ。
トロイ：そんな奴は、最初から存在しなかったんだよ！
トロイ：本物は、この僕だけだったってわけ。
トロイ：まあ逆に『大将軍』も『さやか』も『トロイ』も、
トロイ：全てがみんな僕だったって言うこともできるけどね？
智也　：何でそんなことを？
トロイ：君を試したんだよ。
智也　：試した？
トロイ：僕はね？『僕と同じような匂い』のする人間を、この世界の中に探してたんだ。
トロイ：だから君を試した。
トロイ：いや、君だけじゃない。今までに何百人と試して来たんだ。
トロイ：同じ方法を使ってね？
トロイ：だけどその試験に合格した者は、いまだかつて１人もいなかった……。
トロイ：受験者が不合格と分かると、適当な理由をでっちあげ、僕はすぐにそのサイトを閉鎖した。
トロイ：二度とかかわり合いにならないようにする為に……。
トロイ：そうして何度も何度もＨＰをＵＰして、
トロイ：ようやく僕は、僕の求めていた人物に巡り会うことができたんだ。
トロイ：つまり……君にね？
智也　：バカじゃないのか？　おまえ？
トロイ：どうして？
智也　：そんな下らない嘘で人をダマシまくって、手間ひまかけて無駄に時間を費やして……。
智也　：んなもん、どう考えたってマトモな人間のやることじゃ

（いまだにあいつは、じめじめと湿った石の下に隠れているのだろうか？）
（或いはもしかしたら、もう既に、何かのキッカケによって、新しい世界へと旅立っているのかも知れない）
できれば、そうであって欲しかった。
週に数回、マシンを起ち上げてはメールチェックをしていた。
当たり前のことだが、1通たりともメッセージが届くことはなかった。
（いったい何を期待してるんだろう……オレは？）
『サヨナラ』という最後の言葉は、オレの頭の中から消え去ることはなかった。
その言葉を思う度に、何だか知らないが、胸が沁みるように痛んだ。
決して悔いているわけではない。
あれはあれで仕方のないことだった。
どんなに正しい選択だって、時には痛みを伴うこともあるのだ。
たぶんそういうことなんだろうと思う。
そんな風にして、この1ヶ月は瞬く間に過ぎて行ったのだった……。

――――――――――――――――――――――――――――

《11月11日日曜日》
――昼過ぎ。
いつもよりもだいぶ遅く目覚めたオレは、真っ先に、ここ何日か触れていなかったパソコンを動かすことにした。
もちろんメールチェックをする為に……。
そんなものは、起きてすぐにやるべきことじゃないのかも知れないが、しばらくチェックを怠っていたこともあって、それを済ませないと1日が始まらないような気がしたのだ。
昨日買っておいた菓子パンをムシャムシャと頬張りながら、
夕方の再放送でも見るようなお気楽な感覚で、オレは無造作にマウスを走らせた。
智也「さてと……」
智也「今日も新着メ…………」
――突如、稲妻が体を貫いた！
食べかけの菓子パンが、口からポロリとこぼれ落ちる。
『1件の新着メールがあります』
差出人の欄を確認すると……
……『トロイ』
早速、オレはその下に続く本文を読んでみることにした。

こんにちは、智也くん。
先日はどうもスイマセンでした。
あれからいろいろと考えたんだけど……
……と言う前に、まず最初に言っておかなければならないことがあったっけ(^-^;
驚かないで聞いて下さい。
（と言ってもたぶん無理だとは思うけれど……）
私の本名は夢眠（ゆめみ）と言います。
つまり……私は『女の子』です！
あ！　なんだ？　その疑いの眼差しはぁ！
でも、まあ……しょうがないかぁ……。
あれだけさんざん嘘ついといて、信じて下さいって言う方が間違ってるかも知れないね？
だけどこれだけは、信じる信じないの問題ではなく、決定的な（宿命的な）真実なのです！
私はこの世界の中で、別の人格を遊ぶ為に、男の子を演じていたに過ぎません。
要するに『大将軍』も『さやか』も『トロイ』も全てがニセモノだったということです。
そうやってニセモノに成り代わることが、私にとっての唯一の逃避の手段でした。
そう！　智也くんが言ったように、私は逃げていたのです。
『じめじめと湿った石の下に隠れる臆病な節足動物』
という喩えは、まさに的をえた表現と言えます。
（もちろん最初に読んだ時は、とてつもなく腹を立てましたが）
そんなカビの生えた薄汚い土壌を、私はこよなく愛していましたし、
『きっと世の中の全ての人も、私と同じように考えているに違いない』
という大いなる錯覚（妄想）を抱いていました。

智也　：その壁の向こう側には、トロイを必要としている大切な誰かが待っているかも知れない。
智也　：オレの言ってること分かるか？
……しばらく待ったが、トロイは答えなかった。
腹を立てて、既にウィンドウを閉じてしまったのかも知れない。
けれどオレは、どうしても書かずにはいられなかった。
そこにいるかどうかも分からない相手に向かって……？
いや。
たぶんオレは、オレ自身に向かって訴えたかったんだと思う。
トロイに対して言ってることの全ては、
そっくりそのまま、オレ自身にとっても当てはまることだったから……。
智也　：トロイは、現実を彩る為に仮想を利用するのではなく、仮想を彩る為に現実を利用している。
智也　：結局は、傷つくのを怖れて仮想の世界に逃げ込んでいるだけなんだ。
智也　：まるで、じめじめと湿った石の下に隠れている臆病な節足動物みたいに。
智也　：どうしてそんなに傷つくことを怖れる？
智也　：つまずいて、泥まみれになったその瞬間にだって、輝きは秘められているんだぞ？
智也　：傷つくことだって、それはそれで貴重な財宝となり得るんだ！
智也　：『忌まわしき宿命から解き放たれる』？
智也　：そんな世界、単調で退屈で平凡で、何の魅力もありはしない。
智也　：『理想郷』だか何だか知らないが、オレに言わせればそんなもん『死葬郷』に過ぎないな。
智也　：いいか、トロイ？
智也　：宝物は墓場にあるんじゃない。
智也　：現実の世界にこそ埋もれてるんだ！
智也　：扉を開けて表を見ろ。
智也　：そこに輝きがあふれてるだろ？
智也　：次に１歩を踏み出せば、そこから先は冒険だ。
智也　：現実を生きるってことは、要するにそういうことなんだ。
智也　：毎日毎日が宝探しの冒険なんだ。
智也　：分かるだろ？
智也　：宝探しに行くんだよ！
……重苦しい沈黙が続いた。
ディスプレイ上のカーソルが、音もなくひっそりと脈を刻んで明滅している。
トロイは何も語らなかった。
オレは全てを語り尽くしていた。
時が止まったように静かだった。
やがて……
トロイ：サヨナラ
『TRAU Was Disconnected』
……真っ赤な文字が画面に浮かんだ。
『サヨナラ』――それがトロイの、最後の言葉だった。

――――――――――――――――――――――――――――

《11月某日》
あれから1ヶ月が経った……。
オレはいつもと同じように学校に行き、
いつもと同じように他愛無い会話を楽しみ、
いつもと同じように安らかな眠りについた。
いつもと同じように？
いや、その言葉は正しくないだろう。
オレは自らの言葉を遂行すべく、日々を宝探しに費やしていた。
もちろん、土をほじくり返したり、サルベージ船で沈没船を引き上げたりしていたわけではない。
その一瞬一瞬に、そして目に写る全ての場所に、巧みに隠された光の痕跡を求めた。
家路につくオレの両手には、いつでも、抱え切れぬ程の財宝があった。
『いつもと同じ日々』なんか決してなく、確実にどこかに向かって進んでいた。
昨日と今日は、全く違う、別の1日だった。
――それは思ったよりも楽しい毎日だった。
しばしば、トロイのことも考えた。

朝のしずくのように澄んだ瞳で、ただじっと、オレのことを見つめている。
じっと……見つめている……。
じっと……見つめている……？
……まさか？
智也「ひょっとして……」
オレの言葉に対し、静かにうなずいて示した彼女は……
夢眠「成沢……」
夢眠「……夢眠です」
途切れ途切れにそう言って、少し緊張気味にちょこんとおじぎをした。
初めて聞いた夢眠の声……。
それは、心をそっと包み込むような、優しい温もりに満ちた声だった。
トクン、トクン、と脈打つ音が、耳の奥で鳴っている。
体の中心が燃えるように熱かった。
智也「ゆめみ」
この人が……夢眠……。
あの何も見えない黒い画面の奥で、何度も何度も会話を交わした相手が、今、現実に、オレの目の前に立っている。
何だかむしょうに照れくさかった。
まるで、ひっそりと隠された秘密を、お互いにのぞき込んでいるような、そんな感覚だった。
その照れくささを紛らす為に、オレはいきなり、夢眠の手の平をぎゅっと握りしめた。
智也「よしっ！　行こうっ！」
夢眠「……い、いくってどこに？」
突然のオレの行動に、夢眠は面くらっているようだった。
けれどもオレは、そんな事はおかまいなしに、夢眠の手を引いて、ぐんぐんと歩き始めた。
智也「んなもん……決まってるだろ！？」
幕が上がったんだ。
物語はこれから、始まるんだ。
オレは夢眠のことを、何も知らない。
閉ざされた心の訳を知らない。
そして夢眠もまた……オレの過去を知らないでいる。
だけど、それでいいんだと思う。
ここには現在と、現在から未来へと続く道だけしか存在しないのだから……。
今はとりあえず、前だけを見つめて進もう。
やがて時が来て、オレ達は互いの過去について打ち明けることになるかも知れない。
でもその時が来るまでは、ただぐんぐんと、真っ直ぐ歩いて行けばいいんだ。
『始まり』とはそういうものだろう。
脇目も振らず、ただガムシャラに進み続けることこそが、きっと『始まり』なんだと思った。
夢眠「ねぇ？　ほんとにどこ行くの？」
ぐいぐいとオレに引っぱられながら、夢眠が不安気に尋ねて来る。
オレはその問いに対してこう答えた。
智也「宝探しに、行くんだよ！」
とたんに夢眠の頬がほころんだ。
当たり前の事だけど、今、オレは初めて夢眠の笑顔を目にしたのだ。
夢眠「うん、行こう！」
夢眠「見たこともない、宝を探しに！」
それは息を呑むほどに魅力的な、不思議な煌きをたたえた笑みだった。
握り返した手の平に、沁み入るような温もりを感じた。
その温もりが『現実の世界』に存在することの、確かな証であることに間違いはなかった。
オレ達はぐんぐんと進んで行く……。
脇目も振らず、進んで行く……。
果てしなく続く、未来への道を……。

／／END

けれども今、私はようやく、あることをキッカケにして、
本当に大事なことに気がつくことができました。
冷たく濡れた石の裏から、温かな光の中へと踏み出したのです。
そのキッカケは（もはや言うまでもなく）智也くん……あなたが与えてくれました。
本当にありがとう！
ん？　なんだか月並みなメールですね？
でも真実を書こうと思えば思うほど、どうしてもこうならざるを得ませんでした。
（あ、これは言い訳ですか？　……うん、言い訳ですね）
言葉をいくら並べても、私のこの想いを完全に伝え切ることは不可能でしょう。
本当に、何と言えばいいのやら……。
ありがとう。
そして、いろいろとゴメンナサイ。
結局、この２つのことが、言いたかったのです。
どうしても、言いたかったのです。
最後に、もう１度だけ、私の名前を記させて下さい。
この名前こそが、現実世界に生きる私の証なのです。
私の名前は夢眠（ゆめみ）と言います。
『トロイ』とは、ドイツ語の『トロイマリン』から取りました。
『トロイマリン』の和訳は『夢見る人』
ちなみにシューマンの有名なピアノ曲『トロイメライ』は『夢見ごと』という意味です。
それでは……。

追伸：今度の日曜日11月11日午後２時
　　　澄空駅の前で待ってます。
　　　これはもちろんお願いではなく、ただの報告です。

（11月11日……？）
（……って今日じゃないかぁ!!）
（午後2時……？）
（……ってもう1時半過ぎてるぞ!!）
オレは慌てて支度を整えると、
床に落ちていた菓子パンを躊躇うことなく口に放り込んで家を飛び出した。
不思議なくらい迷いはなかった……。

《11月11日日曜日／夕方》
――あれから3時間が経った。
夢眠はまだ来ない。
ひょっとすると、もう来ることはないのかも知れない。
いや、そんなことはない。
夢眠は来る。きっと来る。
そう信じていた。信じたかった。
けれど……。
空は、ツルリとむかれたような赤色に染まっている。
こっそりと、誰かが幕を下ろそうとしている。
それは降り積もるように静かに近づいて来る『終わり』の印だった。
（やっぱり夢眠には無理だったんだろうか？）
（踏み出すことはできなかったんだろうか？）
（現実を、傷つくことを、怖れてしまった？）
智也「しかたない……」
智也「……帰るか……」
杉の幹から体を離すと、冷たい空気が流れ込むようにして背中に触れた。
そうしてゆっくりと、オレは振り向いた。
振り向いて、次の1歩を踏み出そうとしたその時……
……目の前に、女の人が立っていた。
優しい瞳をした人だった。
危くぶつかりそうになり、オレは慌てて体を反らせた。
智也「あ、ご、ごめんな……さい」
そう言って退き、道を譲る。
けれど彼女は、その場に立ち尽くしたまま、1歩も動こうとはしなかった。

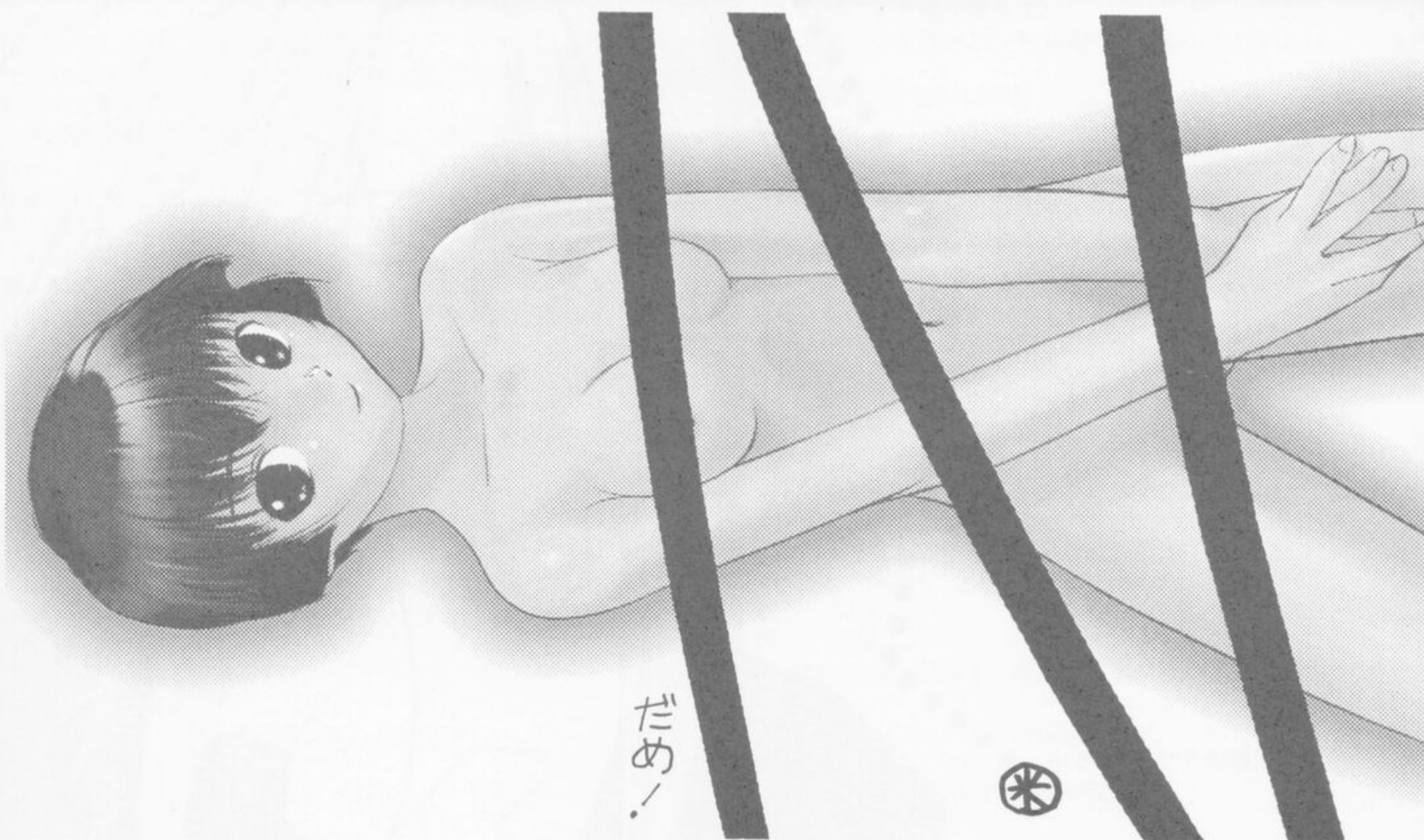
COMMENT

さそってイただいて、ありがとーございます。
わけわかんない マンガですみませんが…

CM
今度、僕のサークル「天下太平」でも
メモオフ本を出す予定なので
興味のある方はHPを
のぞきに来てやって下さい。
ではでは 森しんじ でした。

URL: http://home9.highway.ne.jp/sin-ji/

森しんじ
デバッカー

ぷろふぃいる？
なまえ・森しんじ しょくぎょう・お絵描き屋さんな感じ
こじんさーくるめい・天下太平
ほーむぺーじあどれす・http://home9.highway.ne.jp/sin-ji/

米十
CG

プロフィール？KIDを辞めてはや一年ただいまぶらぶらとしております。夜中におきだして、意味もなくNETつないでまるっきりヒッキーなかんじです。当時を懐かしく振り返ると、髪の毛がはらはらと、抜け落ちるおもいです。まわりの皆様方がいいひとばかりだったのがせめてものすくいでした。がんばることはよいことですあたりまえのことなんですがたいへんなことです

みなさん こんにちは。ゲーム本編で、詩音役を演らせて頂きました、利田優子です。
さてこの度は、この様な素敵な企画にお誘い頂き、本当にありがとうございました。
詩音とシオンの花を描いてみたのですが、お花の方が描くのに時間がかかってしまったのは一体ナゼ？（笑）
でも久し振りにイラストを描く事が出来て、本当に楽しかったです。 ありがとうございました。
それでは、最後はいつものセリフで…
ごきげんよう！

利田優子
声優（双海詩音 役）

新人声優。81プロデュース所属。現在放送中の『コレクター・ユイ』にて、如月春菜（コレクター・ハルナ）役で出演中。ただいま、お仕事、オーディションの御依頼、励ましのお便り、大募集中です！（笑）またHP（『利田優子応援団！』）も開いていますので、みなさんぜひ一度、遊びにいらして下さいね？お待ちしております❤

いろいろ大変だった。
みな様 お疲れ様でした。
絵は苦手だ…。

打越鋼太郎
シナリオ

メモオフでは唯笑シナリオを担当。あとはみなものプロットも考えた。これが出る頃には現在書いてるinfinityの補完版も終わってるハズ。その補完版がまた凄まじく面白い！ 絶対損はさせないのでやって欲しいよぉ。で、たぶん今頃はメモオフ2を書いてると思う。こっちもデキは良さそう。――乞う御期待！

なりもとよしな
CG

「なりもとよしな」(yoshina@haraguro.office.ne.jp)と言います。
会社を辞めてフリーの色塗り屋をやってみました 頑張って仕事をしてもお金が入りませんでした なんか社長さんがバックレたとか聞いちゃった おかげさまで家賃が払えません 家を追い出されたらお礼に行ってみようと思いました、てへ。

こんにちは。
ちーちゃん(仮)と言います。詩音ファンです。見ての通り…。
キッド有志様、今回はお誘いいただきありがとうございました!楽しく描かせていただきました♡
また次回何かありましたら…よろしくお願いします!!

ちーちゃん
関連商品制作会社

ペンネーム2:ちーちゃん 職業:会社員 年齢:20代後半に突入
美少女ゲーム歴:5年? イラスト歴:ペンを持ったのは中1(そのわりに下手・・・)
「Memories Off」のお気に入りキャラ:双海詩音

有村まどか
関連商品制作会社

有村まどかです。今回は無理言ってお邪魔させていただいた上締め切り破り放題で、もうたいへんなことです。ほんとごめんなさい!!まどかさんは現在同人は引退済みです。閉鎖中のHPは復活予定なのでよろしくです。でわでわ。
http://www.interq.or.jp/www-user/sakuam/

Memories Off で音羽かおるの話を書かせていただきました、高瀬伸です。

ＥＤテロップと名前が違いますが、一応本人です (^^;

今回はＫＩＤさんへの恩返しという事で参加させていただきました。

思えば色々と苦労しましたし、楽しいこともありました。

でも今では過去の出来事です。ただ思い出として記憶にあるだけです (笑)

それでもこの作品に参加できた事はとても嬉しかったです。

ＫＩＤの社員のみなさん、かおるを描いてくださったささきむつみさん…

そして音羽かおるの話を見てくださったユーザーの方々…

みなさん、本当にありがとうございました。

2000年8月　高瀬 伸

高瀬伸
シナリオ

KIDさんで○年ほどお手伝いを経て、現在はフリーのシナリオライターとして、世間の厳しさを痛感しながら日々を過ごす。様々なジャンルを経験し、もっと幅広い書き手になろうと悪戦苦闘中。と・・・まだまだ若輩ですが、どうぞよろしくお願いします。takase@pm.highway.ne.jp

柴田太郎（TAS）
ディレクター

メイドさんの格好の詩音を推進する人。大学卒業後ナニを思ったのかゲーム系専門学校へ……で、バイトからそのまま今の会社に。人生を狂わせたものはウィザードリィとVF1、そしてガンダムちなみにセガ人なので伊豆のDC移植はある意味天職といえよう^^; http://www.vc-net.ne.jp/~tas/

へっぽこ物書き日暮茶坊…お仕事募集中(涙)

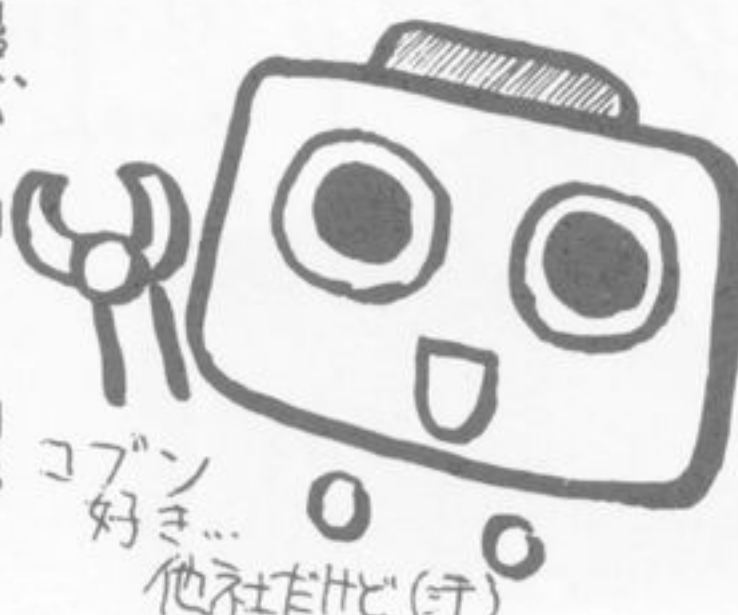
(siriqa@hotmail.com)

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

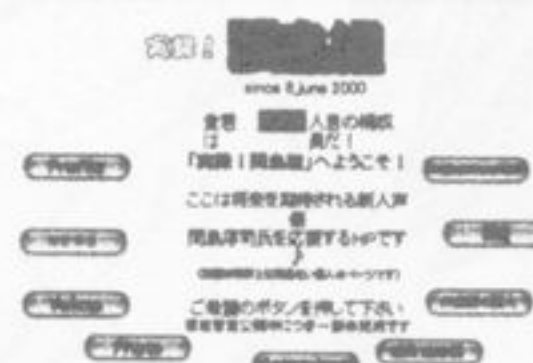
悪夢の(嘘)29日に、アキバに「ドリラー」を買いに行ったのが運のつき…ソフマ●プ前でエンタ●ブレインの編集氏につかまり、そのまま大行列のメ●セサンオー前へ。そこには、どこかで見たようなK●D開発陣が！ そんなわけで、うやむやのうちに紛れ込んでしまった利田さん握手会の打ち上げで、本紙の存在を知らされたのでした…って〆切10日前だったり（涙）。

まぁ、とにもかくにもソフト自体は好評なようで何よりです…とはいえ、私は単なるPS版の時の外注さんだったので、今回（コンプリート）では何もしていないのですが（汗）。

んー、伊豆については思い起こすと、主にツラかったことしか出てこないのでアレなんですが、まさかこんなに長いコト関わるとは夢にも思っていませんでした。もう1年以上…って、生まれた子供が歩き出すぐらいの年月が過ぎているワケですよ。そんなわけで、最初のシナリオ書いてた頃のことはあんまり覚えてません（←鳥頭）。年末のビジュアルファンブックぐらいなら、記憶に新しいんですが。他のライターが倒れたり、編集が倒れたり、他にもむにゃむにゃ…やっぱ、何にしてもつらいことしか出てきませんね（涙）。

まぁ、伊豆については内部の方が隅々まで語ってくださっているハズなので、ちょっと最近の話などを。実は、伊豆をきっかけに知りあった声優の間島淳司氏（稲穂信役ですね）らと、ミニFM&インターネットラジオをはじめることになりました。まだ企画段階&完全に趣味的なモノなのでどうなるかは未定なのですが、もしよろしければお聞き下さい。詳細は、随時右記のHPにてお伝えできると思います…って、ここで告知だけしてコケると格好悪いなぁ…頑張りましょ！

間島組構成員
熱烈募集中！

「実録・間島組」は、伊豆において信を演じられた「間島淳司」氏を応援するHPです（非公式）。組員一同お待ちしておりますので、皆様お誘い合わせの上お気軽にどうぞ～。

http://members.tripod.co.jp/kagata/majima/index.html

（管理人・湯島のとも氏）

日暮茶坊
ライター（シナリオ・小説他）

「彼女」のシナリオ、マニュアル、VF…って小説のあとがきと一緒だぁあっっ！（笑）。そんなわけでへっぽこ物書きですが、縁あって伊豆に関わらせていただきました。今後も（あれば）よろしう！
(http://www3.tky.3web.ne.jp/~chaboh/index.html)

高井(バニング)**宏暢**
原画・作画監修

昭和39年生まれ、名古屋出身。昭和61年頃上京し、タツノコ系のアニメーターとして劇場作品などに参加する。後に友人の紹介でゲーム業界入り。KIDでは、移植作品「きゃんバニ・エクストラ」「Piaキャロ」「VC」等を、オリジナル作品としては「Kissより…」「メモオフ」「つばさ」等に参加。現在代○木アニメで苦労している(笑)

お疲れ様でした!

&

これからもよろしくお願いします

2000.7. 冬橋末咲

ゲーム同人久し振りで楽しかったデス

冬橋末咲
営業部(広報・宣伝)

月一リリースの荒波にもまれつつ(多すぎ!)、KIDでの生活が早1年○カ月のN妻です。今回は「めもおふ」本ですが、すべてのタイトルに愛情を注いでます。大変です。普段は音楽同人やってます。今回はお目汚しの絵をたくさん描いてしまいました。ファンの皆さんごめんなさい。でもすごいメンバーを集めたので許してね。

お誘いどもっス♡

・唯一人、部外者が混じってしまいました。
何故でしょう。何故かしら。
裏表紙の塗りまで担当してしまいました。
何故でしょう。何故かしら。
(実はめちゃめちゃ不安なのですが♪)

・PRのコーナー。
お仕事募集中です。(下記URLまで)
また、しばらくお休み頂いていたオイラの
個人サークル「こうじ園」も冬から再開
致しますので、宜しくおねがいします〜。

KO-JI!'00

KO-JI!
ミニ設定資料集参加

可愛いおかっぱ娘を描く事に命を燃やす、自称イラストレイター兼マンガ家。ようやくCGの素晴らしさに目覚め、文明の利器と格闘中。イラスト・マンガのお仕事承ります。詳しくは　sakata@din.or.jp　までお問い合わせ下さい。
URL：http：／／www.din.or.jp／~sakata／

◎夏休みの宿題？？

誰？って…誰？(壊)
誰のつもりだったのに…

…をやっている様な作業時間の割り振り方
でした…(反省)いやしかし、時間が無かった
のもまた事実。
最近、自分の絵を描く時間が取れなかった
(取ろうとしなかった)ので、とても良い機会だと思って、
短い時間の中、がんばりました。(まだまだですが…)
メモオフを製作してきた一員として、
こんな形の本で皆様と一緒に加えて頂けて、
感謝感謝でした!!!(…訳わからん。)
中里壮志 as たけぽん。

中里壮志
CG

メモリーズオフにて、成り行きでCG監修を担当する。ネット上では「たけぽん」というハンドルネームで徘徊している。たけぽんという名を使う人は多いが、モリガン使いのたけぽんと言えば、恐らく私だけである。現在「ねこねこはうス」というHPを運営中。http：／／www.intacc.ne.jp／HP／noru／2／index.html

みなさん大変おつかれ
さまでした。
これからも皆さんの足を
引っぱらないように
がんばっていきたいです。(多分)

ちゅるり
CG

私KIDでCGを塗らせて頂いている石川といいます。
イベントなどでたまーにちゅるりジャパンというサークルで活動しています。
HPなどは持っておりませんが近いうちに・・・作ろうという気持ちは満載です。
その時は遊びに来てあげて下さい。

松乃字ひとつ
原画

メモオフで何を担当したかと言われれば、販促原画と応えてしまうでしょう。
本編の方も一応描いてるんですけどね。販促コンボから繋がったこの同人誌で自分のメモオフも終了…だよな？(汗) 髭も剃って休みに寝れる生活を！素晴らしい気もするけど現実はそうお気楽になれない状況は続いてるのでした。

レ(□皿□)ノ
みなもロボ…ガガガ

なぜか私の所の
チャットにおいて
みなもはロボット扱い…(笑)

西俊秀
一般

飛び込み参加の西俊秀と申しますっ☆普段はゲーム系を中心に同人活動をしながら、昼夜制服をこよなく愛する好青年です（オイ「ばっすん工房」のサークル名でイベントに参加しておりますので、お見かけしたら指を差してやってください（笑）
http：／／www.renge.sakura.ne.jp／～seno／BSN／

締切は守ろーね。

どういうこと？

インフィニティ
なのに
どーして私たちが
出てないの？
優夏さん

呼んだ？

これはインフィニティ
ではなく
『メモリーズオフ
インフィニティ』
なんです
うん
うん

…………
関わり合いに
ならない方が
……はい

ちょっと
まぎらわしーこと
しないでくれる？
あ、人気無くて
出番増えない人

私がいいって言うまで
黙ってて！
はぁ

でも……なーんで
こんなタイトルに
なっちゃったんだろ？

だって……

終わんない
んだもん
だそうです
たすけて
いんふぃにてぃ――っ

冬槻未咲（以下 未）：只今「松」さんは机の上を片づけております。ちなみに今日帰ると 19 日ぶりの帰宅だそうです。……用意はよろしいでしょうか？
松乃字ひとつ（以下 松）：こういうのは初めてで何言っていいのやら……。何言いますか？
未：えー？反省点とか苦労話とか愚痴とか。
松：（笑）。それはこの本作成に当たってですか？それとも実際の仕事の事？（爆）
未：り、両方？（あ、仕事のことを語ったらきりがないという声が今。）
松：両方は辛いか、際限無くなる（笑）
未：じゃあ、好きなキャラについて♪（いきなり話題転換。）
松：無難な路線変換ですね（笑）。う～ん、だれだろなぁ……。
未：営業部では小夜美さんの人気が高いのですが、その辺についてのコメントを何か一言。
松：小夜美さんねー。数ある販促物の中でも最後の最後になるまで描く機会が無かった人ですな。CG 塗りの手伝いで担当したキャラだったので思い入れの在るキャラでわあったんですが。
未：今度初めて小夜美さんテレカを販売するんですよ。どのくらい売れるのかなぁ……。
（注：7月22・23日の「東京キャラクターショー」にて。）どう思います？
松：どう思います？って（汗）。……コンプリートする為に買う人がいるに違いない（爆）。
未：コンプリート？何を？（わかって言ってるしー。）……じゃあ、嫌いなキャラについて。
松：おいおい、お互いの好きなキャラじゃなかったんすか？それに嫌いなキャラって…いるの？
未：いないの？
松：みんな大好きに決まってるぢゃないですか！
未：……今、悩んでからの返事に見受けられたんですけど。
松：いや、まぢいないっすよ？（汗） 好きなキャラなら彩花か詩音！
未：それはキャラ的にですか？それとも仕事で描く時ですか？
松：キャラ的に。描く分には皆大変だけど選り好みはないです。だから仕事も選り好みしなかったでしょ？
未：されたら困りますもんね（笑）。たいがい彩花&唯笑か唯笑&詩音ですもんね。……今、松さんは BGM を物色中です。あ、メモオフドラマ CD を……え、やめるんですか？
松：辞めます、ぢゃない、止めます。（なんつー変換だ（苦笑））
未：それはやっちゃいけない変換です（笑）。じゃあ、ドラマ CD の思い出を。

松：千葉さん（注：音響監督の千葉繁さん）がスゲエ！<思い出
未：た、確かに……あと間島さんもかっ飛んでました（笑）
松：皆『声優さん』してました。直にアフレコ見れたのはアニメーターやってた頃を通しても初めてだったので新鮮な感動。山本さん居たし～（笑）<注：彩花役の山本麻里安さん
未：ファンなんですか？
松：カレカノの花野ちゃんが好きだったので（爆）。コンプ版の音声追加で、TAS ことしばっきーに『お～っす！』を入れてもらってくれと頼んだのはおいらです（連爆）。
未：ああ、やってましたね、DC版の収録の時「ぉいーっす」って（笑）。ってゆーか、思い出はそれだけ？
松：いや、まだ色々あったんですよ？この本にも収録レポート漫画を描こうとしてたんですけど……諸般の事情により描けなくなりました。
未：素直に言えばいいじゃないですか。時間が無かったって（苦笑）
松：バレてる（爆）。ちゃんとメモってたのにね～。そう言う未咲さんこそビッグな思い出が在るはづ。看護婦さん（笑）。
未：声優でびゅー。ってゆーか、マイクの前に立つの久し振り。
松：からおけ？（違）
未：その昔 N○K に出たことが。
松：!? マジですか!?初耳だ！すげえ！
未：あと東京ゲームショウでスタッフ連絡とか。
松：何か色々やってますね……経歴不詳の女だ……。
未：この会社にいること自体謎ですもんねー。
松：おいらも。どっかいいトコないですか？（爆）
未：実はブラウザのお気に入りフォルダに某求人サイトを入れてるなんて話はここだけの話。
松：入れてるだけならおっけーです。って未咲さんもですか？結構みんなお気に入りだなー（笑）いや、今の職場だっていいトコだからまだまだ大丈夫です！
未：そうですねー。あ、でも私、バイト今日までなんです。さよーなら～♪
松：!!? まぢで!?っちゅー事はいよいよ？
未：出社が 30 分早くなるだけ（笑）
松：おいらにとってそれは致命的<30 分早く。いや、おめでとうございます☆
未：じゃあお祝いにカラオケ行きましょう。
松：行きて～。遊びたい～。ここ一ヶ月以上は土日も会社生活だったしなあ…（涙）。や、そんな後ろぐらい話しは止めです。話はちょっと戻りますが、CD ドラマ収録の時にもう一ついい事あり

75点。

ましたよね?
末:利田さんのメアド教えてもらったことですか?
松:わしがそんな下衆な漢に見えるかぁ~!?
末:だって教えてもらったじゃないですか。
松:いや、教えてもらったけど。そーでなくて、利田さんと知り合ってこの本に参加して貰える事になった事ですよ。
末:かあういですねー、詩音イラスト。(うふふ、自宅に送ってもらったので、これ書いてる段階で私しか見てないのでーす!)
松:……。ち。
末:特権(笑)。
松:確かにおいらの知らない原稿も沢山あるですよね。出来上がりが楽しみです。がんばれ、編集長!(笑)
末:そう、編集長特権(泣)
松:発起人にして主催者たるこの二人、負担は末咲さんに集中しております(爆)。
末:もー諦めてます。
松:賢明です(笑)<諦め。でも、末咲さんが居なかったらこの本は動き出しても無かったと思います。なにしろおいら同人誌作成経験ゼロ。感謝感謝(笑)。
末:もう、できますでしょ?一人で。
松:無理無理~♪人に頼んで追いたてて原稿集めるくらいは出来るかもしれませんが編集作業はとんと及びつきませぬ。
末:まぁお蔭様で、とっても豪華ゲスト本になったと思いますが。思い残したことも多々あると思いますので、次回作に期待ということで。
松:次回作…今度はどんなネタで行きましょうかね?サークル名の由来の如く行っちゃあ戻りのあてども無い旅です。
末:え、いんふぃに本じゃないんですか?
松:おいら いんふぃにてぃ殆ど関わってないですやん。づ~~っと、メモオフ販促物原画やってたモノ(涙)。
末:(苦笑)。さぁ、みなさんご一緒に。「めもりーずおふ、いんふぃにてぃ!」

(終)

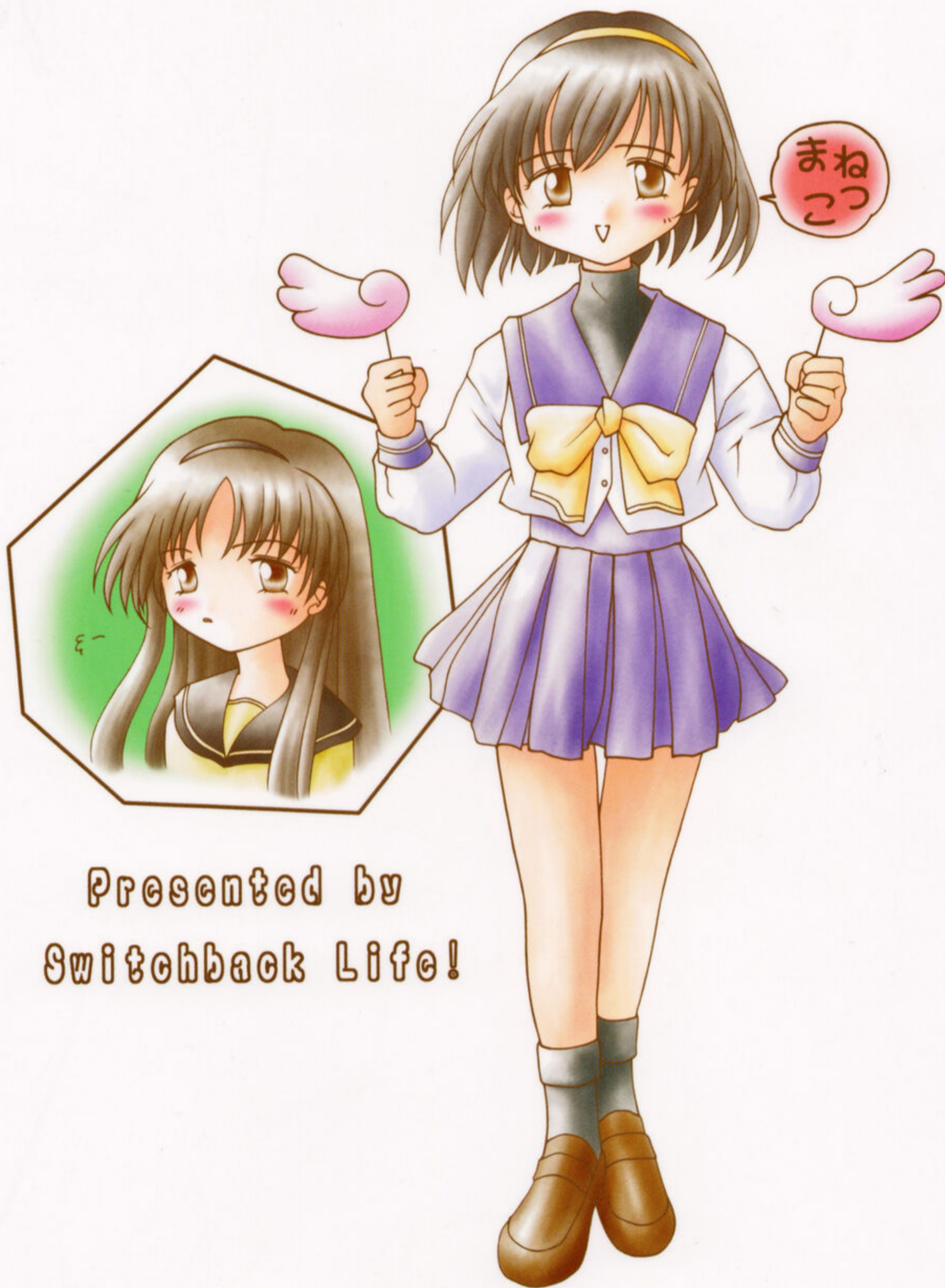
(松:そんな締めでいいのかよぉ!?)

<2000.7.19収録>

本誌は株式会社キッド
未公認の同人誌ですので
キッドに迷惑がかかるような行為は
なさらないでくださいね。

session

Memories Off ~infinity~
KID 未公認メモオフ本

発行日：2000年8月13日
再版：2000年12月29日
発行：Switchback Life!
編集人：松乃字ひとつ・冬櫛未咲
印刷：大陽出版

Presented by
Switchback Life!